

<評価凡例>

A 計画に対し十分に取り組み、成果も得られている。 A- 計画に対し十分に取り組み、一定の成果が得られている。
 B 計画に対し十分に取り組んでいる。 C 計画に対する取り組みは十分ではない。

資料1-2-2

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

No.	年度計画	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																							
				説明																																																									
第1 1 医療の提供	各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足の向上	1	セカンドオピニオン外来を充実する。	No.1 セカンドオピニオン数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>総合</td><td>107</td><td>112</td><td>114</td></tr> <tr><td>こころ</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr><td>こども</td><td>45</td><td>63</td><td>39</td></tr> </table> 39 医事係	区分	26年度	27年度	28年度	総合	107	112	114	こころ	-	-	-	こども	45	63	39	A-	診療科の振り分け・セカンドオピニオンかどうかの振り分けを的確に行い、スムーズな受診、院内の混乱を防ぐことができた。	総合病院では完全予約制により全ての診療科でセカンドオピニオンの相談を受け、主治医以外の医師からの意見を聞くことができる体制をとっている。医療機関の紹介状をもとに診療科の振り分け・予約受付等が行われ、患者の負担を少なくする配慮が行われている。																																						
		区分	26年度	27年度	28年度																																																								
		総合	107	112	114																																																								
		こころ	-	-	-																																																								
		こども	45	63	39																																																								
		2	運用実績を通じてエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行うことにより、医療の質を確保し入院中の経過を分かりやすく説明できるクリニカルパスの適用率を高める	総合 No.2 H28追加 クリニカルパスの新規作成、適用率実績 <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>新規作成(件)</td><td>18</td><td>16</td></tr> <tr><td>修正(件)</td><td>51</td><td>224</td></tr> <tr><td>パス適用率</td><td>75.8%</td><td>66.3%</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	新規作成(件)	18	16	修正(件)	51	224	パス適用率	75.8%	66.3%	A-	(実績に対する評価) クリニカルパスについては、常に内容を見直す体制を維持しており、患者に対してより良い医療を提供している。 (課題) 今後も引き続き新規パス作成、既存パスの見直しを行い、より良い医療を提供していく。またスタッフがより使いやすいシステムにしていく。	新規作成だけでなく既存パスの見直しを随時行う体制がとられており、修正(見直し)件数の実績が前年度から大幅に増加している。パス適用率は前年度に比べ低下している。																																										
区分	27年度	28年度																																																											
新規作成(件)	18	16																																																											
修正(件)	51	224																																																											
パス適用率	75.8%	66.3%																																																											
3	看護提供方式見直しの効果を検証する。	総合 No.3 H28追加 職員満足度調査 (単位:%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>27年度</th><th>28年度</th><th>差</th></tr> <tr><td>医師</td><td>80.0</td><td>78.9</td><td>▲ 1.1</td></tr> <tr><td>看護師等</td><td>53.1</td><td>55.1</td><td>▲ 2.0</td></tr> <tr><td>コメディカル</td><td>74.3</td><td>55.5</td><td>▲ 18.8</td></tr> <tr><td>事務</td><td>83.7</td><td>68.9</td><td>▲ 14.8</td></tr> <tr><td>産育休</td><td>58.3</td><td>66.7</td><td>▲ 8.4</td></tr> <tr><td>総計</td><td>60.2</td><td>60.8</td><td>▲ 0.6</td></tr> </table> ・H29年3月末 看護研究数 49 (実践報告含む) ・看護学生実習評価 H28年度アセスメント実習 回答 実習しやすい環境でしたかの問いに全員「はい」と回答している。 看護師離職率の推移 (単位:%) <table border="1"> <tr><th></th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>離職率</td><td>7.1</td><td>6.2</td><td>6.1</td></tr> <tr><td>新卒者</td><td>6.7</td><td>2.9</td><td>1.3</td></tr> <tr><td>早期離職率</td><td></td><td></td><td></td></tr> </table> 「患者様の声」の推移 (単位:件) <table border="1"> <tr><th></th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>ご意見</td><td>82</td><td>72</td><td>57</td></tr> <tr><td>感謝</td><td>21</td><td>32</td><td>37</td></tr> </table>	区分	27年度	28年度	差	医師	80.0	78.9	▲ 1.1	看護師等	53.1	55.1	▲ 2.0	コメディカル	74.3	55.5	▲ 18.8	事務	83.7	68.9	▲ 14.8	産育休	58.3	66.7	▲ 8.4	総計	60.2	60.8	▲ 0.6		26年度	27年度	28年度	離職率	7.1	6.2	6.1	新卒者	6.7	2.9	1.3	早期離職率					26年度	27年度	28年度	ご意見	82	72	57	感謝	21	32	37	A	看護提供方式見直しについては、効率性を重視し、処置ごとのチームで看護を提供する方式から、固定チームナーシング方式に変更することで、患者と関わる回数が増加し、患者との信頼関係が構築できた。 看護師以外の職種では、いずれも昨年度から下落したのに対し、看護師は2%上昇している。産育休では8.4%上昇した。この点については、看護提供方式の見直しや福利厚生制度の充実等、勤務環境改善の効果が現れたと思われる。	看護提供方式の見直し(看護提供方式を効率性重視の「小チーム共同体型」から、看護の継続性・受持ち看護師としての責任を重視した看護提供方式「固定チームナーシング方式」に変更(H27.11月~や))、院内保育所の整備による就学前の児童を対象とした保育や認定看護師の資格取得費用の貸与では当院に残留すれば返還不要とするといった、福利厚生制度の充実等、看護師の満足度を高める取組が行われている。コメディカル等の満足度が低下している点についても留意する必要があるのではないか。
区分	27年度	28年度	差																																																										
医師	80.0	78.9	▲ 1.1																																																										
看護師等	53.1	55.1	▲ 2.0																																																										
コメディカル	74.3	55.5	▲ 18.8																																																										
事務	83.7	68.9	▲ 14.8																																																										
産育休	58.3	66.7	▲ 8.4																																																										
総計	60.2	60.8	▲ 0.6																																																										
	26年度	27年度	28年度																																																										
離職率	7.1	6.2	6.1																																																										
新卒者	6.7	2.9	1.3																																																										
早期離職率																																																													
	26年度	27年度	28年度																																																										
ご意見	82	72	57																																																										
感謝	21	32	37																																																										
4	先端医学棟建設の工事進捗管理を徹底する。	総合 建設工事は概ね順調に進捗しており、当初計画どおり、6月末までに完成できる見込みとなっている。	A	工事の進捗管理を徹底した結果、概ね当初計画どおりの進捗状況とすることができた。引き続き工事の進捗監理を徹底し、来年6月末の工事完成、可能な限り早期の使用開始を目指していく。	先端医学棟建設工事は概ね計画どおり進捗(6月末に完成)し、7/12に竣工式を開催した。今後、医療機器の移動・据付等を行い、本年9月から供用開始を予定(一部施設は8月から順次使用)しており、計画どおりの開棟が見込まれている。																																																								
5	立体駐車場建設の設計及び申請等手続を進める。	総合 ・市、警察等の関係機関と協議し、建築許可に向けた各種手続を進め、平成28年12月28日付けで静岡市より建築許可を受けた。 ・設計完了後に速やかに工事発注手続を進め、3月上旬に施工業者を決定した。	A	建築許可に向けた各種手続や工事発注手続を迅速に進めた結果、当初計画(平成31年1月)よりオープン予定時期を約4か月間、前倒しすることができた。 今後は、第1立体駐車場について、平成30年8月末のオープン、平成30年10月末の工事完了に向けて適切な工事進捗管理を行っていく。	立体駐車場の建設にあたり、静岡市等との調整(建築基準法の特例許可)は計画どおり行われ、また、地元との調整も適切に実施されている。建設工事も早期発注されたことにより、完成時期は当初見込みより約4ヶ月前倒しの完成が見込まれている。(H30年10月完成予定)																																																								
6	入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	こころ 平成28年度稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) No.6 稼働クリニカルパスの状況 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>こころ</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	こころ	4	4	4	A-	クリニカルパスの適用が比較的少ない精神科ではあるが、導入が可能なものについては、積極的に導入している。	精神科という特殊性から、他の診療科とは異なり、より患者の内面に入り込んだ対応(医療)を求められるため、医療の内容が統一されたクリニカルパスを増やしていくことは容易ではないと思われる。																																																
区分	26年度	27年度	28年度																																																										
こころ	4	4	4																																																										

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																																			
					説明																																																																					
第1 1 医療の提供	I 1 (1) 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ① 患者への十分な説明と同意の徹底 ② 医療技術の向上 ③ チーム医療の推進 ④ 医療安全対策の充実 ⑤ 患者満足の向上	7	臨床研究の実施、学会・研修会への参加、資格の取得	<p>治験を含め、臨床研究については、医師も増えていることから年々増加傾向にある。これに関する学会・研修会等についても医師に限らず、臨床試験管理室の職員も積極的に参加している。</p> <p>認定看護師数 16名 専門医数 180名(延べ人数)</p> <p>NO. 7</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="4">(単位：件)</td> </tr> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>臨床研究数(うち治験数)</td> <td>242 (29)</td> <td>262 (29)</td> <td>295 (30)</td> </tr> </table>	(単位：件)				区 分	26年度	27年度	28年度	臨床研究数(うち治験数)	242 (29)	262 (29)	295 (30)	A	倫理審査委員会の迅速審査の導入や、プロトコール、説明文書の雛形作成等の支援により、臨床研究を推進している。研究数は継続して増加している。統合指針に沿って信頼できる研究が実施できるよう、教育、体制整備を進めていく。	臨床研究の件数及び認定看護師・専門医数も順調に増加しており、医療技術の向上に向けた取組が着実に行われている。 今後、医療関係者の臨床研究を支援するリサーチサポートセンターを設置し、ゲノム研究、高血圧・腎臓等の各分野の研究に取り組む予定。																																																							
				(単位：件)																																																																						
				区 分	26年度	27年度	28年度																																																																			
臨床研究数(うち治験数)	242 (29)	262 (29)	295 (30)																																																																							
<p>チーム医療は、病院全体での取組が不可欠であり、診療科の枠を越え医療に従事する多種多様な医療スタッフが情報を共有し、業務連携することで患者の状況に的確に対応した質の高い医療の提供を行った。</p> <p>また、チーム医療に対する診療報酬上の評価が加算されていることから、収益面でも貢献している。</p> <p>NO. 8</p> <p>チーム医療の推進(カンファレンスの開催)</p> <table border="1"> <tr> <th>区 分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> <tr> <td rowspan="5">総 合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護・栄養</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・臨床工技師・理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤師・社会福祉士・療法士</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床心理士</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内47回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>ACT(包括型地域生活支援サービス)</td> <td>随時</td> <td>医師・看護・精神保健福祉士等</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護・栄養等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内52回 院外4回/年</td> <td>医師・看護・薬剤・臨床検査</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策部会</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>適宜(週1回程度)</td> <td>医師・看護・理学療法等</td> <td>企画サー</td> </tr> </table> <p>NO. 8 総合病院：チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>28年度実績(円)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>栄養サポートチーム</td> <td>129,000</td> <td>200円×645件</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>54,884,403</td> <td>DRG係数評価 0.0122×374,893,463円(1ヶ月の包括金額平均)×12ヶ月</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>6,320,000</td> <td>5,000円×1,264件</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>144,000</td> <td>1,500円×96件</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>568,260</td> <td>14日以内 1,500円×225件=337,500円 14日以内(拘束) 900円×143件=128,700円</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>0</td> <td>施設基準を満たしていない</td> </tr> </table>	区 分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総 合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工技師・理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・社会福祉士・療法士	緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士	こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内47回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護	ACT(包括型地域生活支援サービス)	随時	医師・看護・精神保健福祉士等	こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護	リハビリテーション	適宜(週1回程度)	医師・看護・理学療法等	企画サー	項目	28年度実績(円)	備考	栄養サポートチーム	129,000	200円×645件	感染防止対策チーム	54,884,403	DRG係数評価 0.0122×374,893,463円(1ヶ月の包括金額平均)×12ヶ月	褥瘡対策チーム	6,320,000	5,000円×1,264件	呼吸ケアチーム	144,000	1,500円×96件	認知症ケアチーム	568,260	14日以内 1,500円×225件=337,500円 14日以内(拘束) 900円×143件=128,700円	緩和ケアチーム	0	施設基準を満たしていない	A	(実績に対する評価) 総合においては、認知症ケアチームが新たに設置された。質の高い医療を行う体制が整備されている。診療科の枠を越え多職種が参加するカンファレンスは、最良の医療提供のため確実に実施されている。 チーム医療に対する診療報酬が加算されているため、収益面でも貢献している。 (課題) 精神疾患に対するチーム医療の提供を目指し、精神科医師をはじめとした人材の確保・育成に取り組む。	各病院ともに多職種による院内カンファレンスが実施されており、患者の状況に的確に対応できる体制は整いつつある。チーム医療の推進について診療報酬(栄養サポートチーム加算)でも評価されており収益面でも効果が出ている。 退院時における関連施設との調整にあたり、院外との合同カンファレンスも重要になる。
区 分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																							
総 合	栄養サポートチーム	2回/週	医師・看護・栄養・薬剤・臨床検査																																																																							
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																							
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護・栄養																																																																							
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師・看護・臨床工技師・理学療法士																																																																							
	認知症ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤師・社会福祉士・療法士																																																																							
緩和ケアチーム	1回/週	医師・看護・薬剤・臨床心理士																																																																								
こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																							
	感染防止対策チーム	院内47回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																							
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護																																																																							
ACT(包括型地域生活支援サービス)	随時	医師・看護・精神保健福祉士等																																																																								
こども	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護・栄養等																																																																							
	感染防止対策チーム	院内52回 院外4回/年	医師・看護・薬剤・臨床検査																																																																							
	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護																																																																							
リハビリテーション	適宜(週1回程度)	医師・看護・理学療法等	企画サー																																																																							
項目	28年度実績(円)	備考																																																																								
栄養サポートチーム	129,000	200円×645件																																																																								
感染防止対策チーム	54,884,403	DRG係数評価 0.0122×374,893,463円(1ヶ月の包括金額平均)×12ヶ月																																																																								
褥瘡対策チーム	6,320,000	5,000円×1,264件																																																																								
呼吸ケアチーム	144,000	1,500円×96件																																																																								
認知症ケアチーム	568,260	14日以内 1,500円×225件=337,500円 14日以内(拘束) 900円×143件=128,700円																																																																								
緩和ケアチーム	0	施設基準を満たしていない																																																																								
<p>NO. 11 紹介率・逆紹介率実績 (単位：%)</p>																																																																										
<p>NO. 9 医療安全対策、院内感染対策研修等 ※H28年度末時点</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th colspan="4">集団感染数(件)</th> <th colspan="2">院内感染対策研修</th> <th colspan="2">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> </tr> <tr> <td>総 合</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>1,884</td> <td>13</td> <td>2,357</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>422</td> <td>7</td> <td>369</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>16</td> <td>981</td> <td>22</td> <td>2,481</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>29</td> <td>3,287</td> <td>42</td> <td>5,207</td> </tr> </table>	区 分	集団感染数(件)				院内感染対策研修		医療安全対策研修		25年度	26年度	27年度	28年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総 合	4	1	0	2	7	1,884	13	2,357	こころ	0	0	0	0	6	422	7	369	こども	0	0	3	0	16	981	22	2,481	計	4	1	3	2	29	3,287	42	5,207	A	(実績に関する評価) 各病院において感染対策委員会や医療安全委員会を行う等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。	各種研修が継続的に実施されており、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識付けが行われている。集団感染は総合病院で2例(いずれもインフルエンザ)発生しているが、少人数で重篤化せずに短期間で沈静化している。																		
区 分		集団感染数(件)				院内感染対策研修		医療安全対策研修																																																																		
	25年度	26年度	27年度	28年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)																																																																		
総 合	4	1	0	2	7	1,884	13	2,357																																																																		
こころ	0	0	0	0	6	422	7	369																																																																		
こども	0	0	3	0	16	981	22	2,481																																																																		
計	4	1	3	2	29	3,287	42	5,207																																																																		
<p>H25から調査実施時期を統一し、実施している。</p> <p>NO. 10 患者満足度調査 (単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区 分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">総 合</td> <td>入院</td> <td>96.4</td> <td>95.8</td> <td>95.6</td> <td>97.8</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>91.9</td> <td>88.2</td> <td>89.6</td> <td>93.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>入院</td> <td colspan="4">-</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>88.8</td> <td>88.2</td> <td>89.8</td> <td>88.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こども</td> <td>入院</td> <td>92.5</td> <td>91.3</td> <td>91.9</td> <td>98.4</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>89.4</td> <td>91.2</td> <td>90.9</td> <td>98.1</td> </tr> </table>	区 分	25年度	26年度	27年度	28年度	総 合	入院	96.4	95.8	95.6	97.8	外来	91.9	88.2	89.6	93.2	こころ	入院	-				外来	88.8	88.2	89.8	88.5	こども	入院	92.5	91.3	91.9	98.4	外来	89.4	91.2	90.9	98.1	A	(実績に対する評価) 平成28年調査まで、3病院共に全体的に高い満足度を保っている。また、質問事項の共通化を進め、調査の質を向上させることができた。	患者満足度は3病院ともに高い数値(85%以上)を維持しているとともに、アンケートを通じて患者の要望を吸い上げ改善に取り組む事例も見られる。また、調査結果の分析により、各病院での課題、取り組むべき対応策が検討されている。 一部で回収率が低く(総合入院：40.2%)、調査の質を高めるためにも工夫が必要と思われる。																																	
区 分	25年度	26年度	27年度	28年度																																																																						
総 合	入院	96.4	95.8	95.6	97.8																																																																					
	外来	91.9	88.2	89.6	93.2																																																																					
こころ	入院	-																																																																								
	外来	88.8	88.2	89.8	88.5																																																																					
こども	入院	92.5	91.3	91.9	98.4																																																																					
	外来	89.4	91.2	90.9	98.1																																																																					

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

No.	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																												
					説明																																																														
第1 1 医療の提供	I 1 (2) ① 紹介・逆紹介の推進 ② 地域連携クリニカルパスの推進 ③ かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル（ふじのくにねっと）の推進	11	かかりつけ医との連携を充実することにより、入院から在宅まで一貫した高度医療の提供や病状急変時における対応等が可能となるよう連携・機能分担体制を進める。	<p>総合</p> <table border="1"> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>144,000</td> <td>1,500円×96件</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>568,260</td> <td>14日以内 1,500円×2 14日以内（拘束）900円</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>0</td> <td>施設基準を満たしている</td> </tr> </table> <p>NO.11 紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) NO.13</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28目標</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>85.0</td> <td>89.1</td> <td>80.0</td> <td>89.0</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>127.5</td> <td>134.3</td> <td>90.0</td> <td>161.5</td> </tr> </table> <p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である磐田市立総合病院・川根本町いやしの里診療所・菊川市立総合病院・公立森町病院・静岡済生会総合病院・社会保険桜ヶ丘総合病院(H26.4～地域医療機能推進機構桜ヶ丘病院に名称変更)・市立御前崎総合病院・市立島田市民病院・中東遠総合医療センター・榛原総合病院・藤枝市立総合病院・富士市立中央病院・焼津市立総合病院や、各地域の自治体・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築し運用している。</p> <p>NO.16 ネットワーク実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>12,242</td> <td>15,814</td> <td>19,795</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td>病院</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>診療所</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>保険薬局</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>訪問看護ステーション</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>介護福祉施設</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </table>	呼吸ケアチーム	144,000	1,500円×96件	認知症ケアチーム	568,260	14日以内 1,500円×2 14日以内（拘束）900円	緩和ケアチーム	0	施設基準を満たしている	区分	26年度	27年度	28目標	28年度	紹介率	85.0	89.1	80.0	89.0	逆紹介率	127.5	134.3	90.0	161.5	区分	26年度	27年度	28年度	開示施設数	14	15	18	開示件数	12,242	15,814	19,795	参照施設数	208	194	141	病院	17	17	13	診療所	122	104	76	保険薬局	57	59	40	訪問看護ステーション	11	12	10	介護福祉施設	1	2	2	A	<p>(実績に対する評価) 紹介率は、年度目標を上回っており、昨年度実績並みとなっている。 逆紹介率は、年度目標及び昨年度実績を大きく上回っている。 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」のネットワークへの参加施設数・開示患者数・参照件数とも、順調に拡大を続けている。さらに、連携のためのネットワーク基盤の整備が実現することは、医療連携推進において大きな一歩となる。 また、救急輸送患者の画像を事前にチェックして治療に役立てている。 ・病病連携をより充実させる必要がある。 ・ネットワークを維持・活用する。</p>	<p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」の事務局として、医療機関相互の診療情報共有のための広域ネットワークシステムを運用しており、開示施設が新たに3病院加わるとともに、紹介率・逆紹介率とも地域医療支援病院の基準を上回っている。 かかりつけ医との連携を充実させるためにも、参照施設を増やしていくことが望まれる。 また、病病連携・病診連携を進める上で、開示件数を増やすことが求められる。</p>
		呼吸ケアチーム	144,000	1,500円×96件																																																															
		認知症ケアチーム	568,260	14日以内 1,500円×2 14日以内（拘束）900円																																																															
緩和ケアチーム	0	施設基準を満たしている																																																																	
区分	26年度	27年度	28目標	28年度																																																															
紹介率	85.0	89.1	80.0	89.0																																																															
逆紹介率	127.5	134.3	90.0	161.5																																																															
区分	26年度	27年度	28年度																																																																
開示施設数	14	15	18																																																																
開示件数	12,242	15,814	19,795																																																																
参照施設数	208	194	141																																																																
病院	17	17	13																																																																
診療所	122	104	76																																																																
保険薬局	57	59	40																																																																
訪問看護ステーション	11	12	10																																																																
介護福祉施設	1	2	2																																																																
12	地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制の整備を推進する。	こころ	<p>NO.12 紹介率・逆紹介率実績 (単位:%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>H28目標</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>57.9</td> <td>56.2</td> <td>56.0</td> <td>55.0</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>27.6</td> <td>30.8</td> <td>36.0</td> <td>29.6</td> </tr> </table>	区分	26年度	27年度	H28目標	28年度	紹介率	57.9	56.2	56.0	55.0	逆紹介率	27.6	30.8	36.0	29.6	B	<p>(実績に対する評価) 他の医療機関等と連携を図ることで、紹介率は前年実績を上回ったものの、逆紹介率は前年実績を下回った。 「よろず相談・地域連携スタッフ」を中心に、引き続き地域連携を図る必要がある。</p>	<p>他の医療機関では対応が困難な患者を受入れており、逆紹介率は、継続して診療を続ける患者が多いため伸びにくいという事情があり低い数値となっているが、精神科患者の地域移行を進めるためにも地域の医療機関との連携を強化する必要となる。</p>																																														
区分	26年度	27年度	H28目標	28年度																																																															
紹介率	57.9	56.2	56.0	55.0																																																															
逆紹介率	27.6	30.8	36.0	29.6																																																															
13	地域医療連携室を中心に患者の紹介・逆紹介を推進する。特に小児の在宅医療への移行の促進を目標とする。	総合 こども	<p>NO.11 紹介率・逆紹介率実績 (単位:%) NO.13</p> <table border="1"> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>144,000</td> <td>1,500円×96件</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>568,260</td> <td>14日以内 1,500円×2 14日以内（拘束）900円</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>0</td> <td>施設基準を満たしている</td> </tr> </table> <p>NO.13 紹介率・逆紹介率実績 (単位:%)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>H28目標</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>紹介率</td> <td>91.8</td> <td>93.0</td> <td>90.0</td> <td>94.7</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>53.2</td> <td>52.0</td> <td>32.0</td> <td>52.5</td> </tr> </table> <p>在宅療養実患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>患者数</td> <td>607</td> <td>644</td> <td>647</td> <td>676</td> </tr> </table> <p>管理会議資料</p>	呼吸ケアチーム	144,000	1,500円×96件	認知症ケアチーム	568,260	14日以内 1,500円×2 14日以内（拘束）900円	緩和ケアチーム	0	施設基準を満たしている	区分	26年度	27年度	H28目標	28年度	紹介率	91.8	93.0	90.0	94.7	逆紹介率	53.2	52.0	32.0	52.5	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	患者数	607	644	647	676	A	<p>(実績に対する評価) ・紹介・逆紹介共に目標を上回った。 ・在宅医療に移行する患者は増加傾向にある。</p>	<p>紹介率・逆紹介率とも地域医療支援病院の基準を上回っている。</p> <p>こども病院では重篤な患者が多く、こころの医療センターと同様に難しい事情があるが、紹介率・逆紹介率ともに前年度より増加した。今後より一層地域医療機関と連携が図られることが望まれる。</p>																											
呼吸ケアチーム	144,000	1,500円×96件																																																																	
認知症ケアチーム	568,260	14日以内 1,500円×2 14日以内（拘束）900円																																																																	
緩和ケアチーム	0	施設基準を満たしている																																																																	
区分	26年度	27年度	H28目標	28年度																																																															
紹介率	91.8	93.0	90.0	94.7																																																															
逆紹介率	53.2	52.0	32.0	52.5																																																															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度																																																															
患者数	607	644	647	676																																																															

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																					
					説明																																							
第1 1 医療の提供	I 1 (2) 県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ① 紹介・逆紹介の推進 ② 地域連携クリニカルパスの推進 ③ かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル（ふじのくにねっと）の推進	14	心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頸部骨折を対象とした現行の地域連携クリニカルパス適用患者の充実を図る。	総合	NO.14 地域連携クリニカルパス (単位:件)			A	地域連携クリニカルパスの適用推進により、関係機関との連携が行われている。 虚血性心疾患については、医師が積極的に取り組むことにより、大きな成果を出した。	地域連携クリニカルパス件数が大幅に増加しており、関係機関との連携が図られている。特に、虚血性心疾患については適用する医師がH27途中から増加したことにより大幅に増加している。 総合病院は県リハビリテーション支援センターに指定されており、地域リハビリテーション推進実務者連絡会において各圏域の医療関係者との情報交換や活動状況に対する助言を行った。																																		
					NO.15																																							
		15	リハビリテーション病院との連携強化等、病院間の機能分担を推進する。	総合	NO.16 ネットワーク実績 (単位:件)			A	ネットワークへの参加施設数・開示患者数・参照件数とも順調に拡大を続けている。今後も参加施設数を増やし、地域の中核病院としての役割を果たし、地域医療機関等との連携を強化していく。	本システムの継続的な運営のため利用料規定を設定し、利用料徴収することになったが、一部の参照施設が本システムから脱退することとなったが、運営経費の適正化が図られている。県補助制度の創設により新たに3施設が開示施設となり、連携のための体制整備が図られた。 本システムの活用のためには、参加施設が増えることに加えて開示情報が増えることが求められる。																																		
		16	地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	総合	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>開示件数</td> <td>12,242</td> <td>15,814</td> <td>19,795</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>208</td> <td>194</td> <td>141</td> </tr> <tr> <td> 病院</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td> 診療所</td> <td>122</td> <td>104</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td> 保険薬局</td> <td>57</td> <td>59</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td> 訪問看護ステーション</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td> 介護福祉施設</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である磐田市立総合病院・川根本町いやしの里診療所・菊川市立総合病院・公立森町病院・静岡済生会総合病院・社会保険桜ヶ丘総合病院（H26.4～地域医療機能推進機構桜ヶ丘病院に名称変更）・市立御前崎総合病院・市立島田市民病院・中東遠総合医療センター・榛原総合病院・藤枝市立総合病院・富士市立中央病院・焼津市立総合病院や、各地域の自治体・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p> <p>平成27年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。</p> <p>平成28年度においては、地域医療連携推進事業費補助金を活用し、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーにてシステム整備を行った。</p>			区分	26年度	27年度	28年度	開示施設数	14	15	18	開示件数	12,242	15,814	19,795	参照施設数	208	194	141	病院	17	17	13	診療所	122	104	76	保険薬局	57	59	40	訪問看護ステーション	11	12	10	介護福祉施設	1	2	2	
区分	26年度	27年度	28年度																																									
開示施設数	14	15	18																																									
開示件数	12,242	15,814	19,795																																									
参照施設数	208	194	141																																									
病院	17	17	13																																									
診療所	122	104	76																																									
保険薬局	57	59	40																																									
訪問看護ステーション	11	12	10																																									
介護福祉施設	1	2	2																																									

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																
					説明																																		
第1 1 医療の提供	I 1 (3) イ	17	周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	NO. 17 周産期医療における搬送実績 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども→総合</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>総合→こども</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table> 児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこちらの医療センターにて受入れている。	区 分	26年度	27年度	28年度	こども→総合	9	8	3	総合→こども	8	14	11	A	症例の発生状況により搬送実績に増減はあるが、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制の確保等、病院間の連携・協力体制を密にしている。	周産期医療における合併症患者への対応や児童の措置入院等において、病院間の患者搬送が行われるなど機構内3病院間の連携体制がとられている。																				
	区 分	26年度	27年度	28年度																																			
	こども→総合	9	8	3																																			
	総合→こども	8	14	11																																			
I 1 (3) ウ	18	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療に著実に取り組む。	結核病棟50床について運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。 難病医療の法律改正にあわせて、難病指定医療機関の申請を行い、平成27年5月に指定を受けた。 難病指定医についても、これまでに21診療科76名の医師が申請を行い、順次指定を受けた。	総合 NO. 18 入院患者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エイズ</td> <td></td> <td>非公開</td> <td></td> </tr> <tr> <td>結 核</td> <td>107</td> <td>98</td> <td>119</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	26年度	27年度	28年度	エイズ		非公開		結 核	107	98	119	A	県内最大の結核病床の医療機関として、広範囲の地域から結核患者の受入れた。 エイズ拠点病院として、エイズ患者の受入体制を整えている。 難病指定医療機関として、難病患者の受入体制を整えている。	県内での結核病床が東部地域に少ないこともあり、総合病院では県中東部地域の結核患者をカバーしている。このほか、エイズ拠点病院、難病指定医療機関としても患者の受入体制を整えており、エイズ拠点病院としては血液内科の医師4名で対応し、陽性患者の分娩や透析にも対応できる体制が整っている。																				
区 分	26年度	27年度	28年度																																				
エイズ		非公開																																					
結 核	107	98	119																																				
I 1 (3) エ	19	先進的医療である移植医療に取り組む。	腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成等への取り組みを継続する。	総合 NO. 19 移植実績 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腎移植</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> NO. 20 退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位: 件) H28追加 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区 分	26年度	27年度	28年度	腎移植	13	11	14	造血幹細胞移植	8	8	10	強角膜片作成	6	7	3	計	27	26	27	区 分	27年度	28年度	造血幹細胞移植			強角膜片作成			計			A	移植医療について、継続的に取り組んでいる。	移植医療件数については、堅調に推移している。
区 分	26年度	27年度	28年度																																				
腎移植	13	11	14																																				
造血幹細胞移植	8	8	10																																				
強角膜片作成	6	7	3																																				
計	27	26	27																																				
区 分	27年度	28年度																																					
造血幹細胞移植																																							
強角膜片作成																																							
計																																							
I 1 (3) オ	20	急性期リハビリテーションの充実、退院調整の充実を図る。	急性期リハビリテーションの充実、退院調整の充実を図る。	地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に介入している。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>強角膜片作成</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> NO. 20 退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位: 件) H28追加 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(旧)</td> <td>770</td> <td></td> </tr> <tr> <td>退院支援加算1(新)</td> <td></td> <td>1,054</td> </tr> <tr> <td>退院時リハビリテーション指導料</td> <td>980</td> <td>601</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,750</td> <td>1,655</td> </tr> </tbody> </table>	強角膜片作成	26年度	27年度	28年度	計	6	7	3	計	27	26	27	区 分	27年度	28年度	退院調整加算(旧)	770		退院支援加算1(新)		1,054	退院時リハビリテーション指導料	980	601	計	1,750	1,655	A-	(実績に対する評価) 造血幹細胞移植件数は順調に推移しており、昭和57年以降348件にのぼる。	地域医療ネットワークセンター看護師、MSW、理学療法士等が積極的に介入することで、円滑な地域医療連携に貢献した。					
強角膜片作成	26年度	27年度	28年度																																				
計	6	7	3																																				
計	27	26	27																																				
区 分	27年度	28年度																																					
退院調整加算(旧)	770																																						
退院支援加算1(新)		1,054																																					
退院時リハビリテーション指導料	980	601																																					
計	1,750	1,655																																					

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																
					説明																																		
第1 1 医療の提供	I 1 (3) オ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	21	・地域の医療機関や関係機関との連携を深化させる。 ・患者や地域支援のための人材育成、組織の充実を図る。	<p>早期退院の促進と退院後も安定的な生活を維持するためには、入院中から地域生活を見据えた支援が必要とされることから、22年度から取組を始めた「精神科急性期ケアマネジメント」を本年度も継続実施している。</p> <p>また、在宅において、よりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問を積極的に実施した。</p> <p>NO. 21 平均在院日数 (単位：日)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平均在院日数</td> <td>116.6</td> <td>120.7</td> <td>109.1</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)</td> <td>108.1</td> <td>112.3</td> <td>101.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>NO. 21 1年以上入院患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年以上入院</td> <td>61</td> <td>53</td> <td>61</td> </tr> </tbody> </table> <p>NO. 21 訪問看護件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護件数</td> <td>2,751</td> <td>2,883</td> <td>3,522</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>344</td> <td>170</td> <td>147</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	26年度	27年度	28年度	平均在院日数	116.6	120.7	109.1	平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)	108.1	112.3	101.0	区 分	26年度	27年度	28年度	1年以上入院	61	53	61	区 分	26年度	27年度	28年度	訪問看護件数	2,751	2,883	3,522	(うち複数訪問)	344	170	147	A	在宅医療支援の強化及び長期在院患者の退院促進を図るとともに、救急・急性期患者の受入れを積極的に進めた。また、訪問看護回数も対前年同期比で増加した。	こころの医療センターでは、医師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士等による多職種チームを構成し、精神科患者の在宅医療の支援体制を強化している。 平均在院日数の短縮化とともに、訪問看護件数も前年度から大幅に増加している。
				区 分	26年度	27年度	28年度																																
	平均在院日数	116.6	120.7	109.1																																			
	平均在院日数 (医療観察法による患者を除く)	108.1	112.3	101.0																																			
区 分	26年度	27年度	28年度																																				
1年以上入院	61	53	61																																				
区 分	26年度	27年度	28年度																																				
訪問看護件数	2,751	2,883	3,522																																				
(うち複数訪問)	344	170	147																																				
<p>NO. 22 リハ実施実績 (単位：単位)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>20,414</td> <td>17,811</td> <td>17,504</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>7,317</td> <td>6,335</td> <td>6,010</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>8,180</td> <td>7,825</td> <td>8,656</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>35,911</td> <td>31,971</td> <td>32,170</td> </tr> </tbody> </table> <p>NO. 46 CCU診療実績 (単位：人、%)</p>	区 分	26年度	27年度	28年度	理学療法	20,414	17,811	17,504	作業療法	7,317	6,335	6,010	言語聴覚療法	8,180	7,825	8,656	計	35,911	31,971	32,170	A	(実績に対する評価) リハビリ需要の増加に対応できた。 (課題) 専任のリハビリテーション医の確保。	リハビリ単位数は前年度比で増加している(外来患者の増)。言語聴覚業務における学校現場との連携についても、1児童に対して同一の職員が担任と情報共有しながら長期にわたりフォローしている。																
区 分	26年度	27年度	28年度																																				
理学療法	20,414	17,811	17,504																																				
作業療法	7,317	6,335	6,010																																				
言語聴覚療法	8,180	7,825	8,656																																				
計	35,911	31,971	32,170																																				
I 1 (3) カ	遺伝解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	23	遺伝診療に関して、体制の整備を図るため、遺伝診療科を開始する。	<p>院内の関係する部署間の調整を経て遺伝診療科を立ち上げた。当該科の存在を県民や診療所等の医師等に広報するため、ホームページへの掲載や講演会の開催等を行った。</p> <p>NO. 23 遺伝カウンセリング受診者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H28追加受診者数</td> <td>21</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	27年度	28年度	H28追加受診者数	21	39	A	28年度の遺伝カウンセリング受診患者数は39名となり、前年度比18名増加した。世間の関心の高さから今後の増加が期待される。	遺伝子診療科は27年4月に開設され、臨床遺伝専門医3名のほか心理カウンセラーにより、28年度には39件の遺伝子カウンセリングが実施されている。ホームページ等を通じて患者のほか他の医療関係者向けにも情報提供している。																										
区 分	27年度	28年度																																					
H28追加受診者数	21	39																																					
I 1 (3) キ	認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。また、発達障害については、鑑別診断や治療を実施するとともに、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	24	鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施	<p>鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施については現状では困難な状況にある。</p>	B	(実績に対する評価) 現状では困難な状況にある。 (課題) 当該診療に関わるスタッフを確保することが課題である。	鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に必要な人材として、精神科医の安定的な確保が求められる。																																
		25	・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 ・認知症への理解を深めるための専門外来講演会等を開催する。	<p>NO. 25 精神医療公開講座開催状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>講座内容</th> <th>開催月</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般県民向け</td> <td>精神保健福祉ボランティア養成</td> <td>H28.6.7</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>・広報紙「ぬくもり」の発行(年4回 発行部数 500部/回)</p>	区 分	講座内容	開催月	参加者	一般県民向け	精神保健福祉ボランティア養成	H28.6.7	6	A-	今年度は、一般県民を対象とした講座を1回開催した。 また、ホームページや広報誌を活用し、新たな情報を随時提供することができた。ホームページについては、昨年度リニューアルし、より見やすい内容となるよう努めた。	一般向けの講演会等の開催やホームページによる情報発信等により認知症への理解を深めるための取組が行われているが、重篤な認知症患者の受入れのための精神科救急・急性期医療体制の確保に向け、それに特化した具体的な取組が見られない。																								
区 分	講座内容	開催月	参加者																																				
一般県民向け	精神保健福祉ボランティア養成	H28.6.7	6																																				

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認
					説明		
第1 1 医療の提供	I 1 (3) キ	26	発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	こども ・発達障害児を持つ保護者を対象に、平成28年6月～11月の間、計10回、医師や保育士を中心にペアレント・トレーニングを行った。 ・新生児退院診察を週1回実施した。 ・新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。	A-	(実績に対する評価) ペアレント・トレーニング、新生児退院診察、低出生体重児の発達フォローを継続的に実施した。 (課題) 年々増加する発達障害の外来受診に対応するため、診療体制を強化する必要がある。	発達障害については、障害児を持つ保護者のケアが非常に重要になることから、今後も、障害児及び保護者双方のケアのためペアレント・トレーニングの定期的な開催を検討したい。
	I 1 (3) ク	27	中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。	・第2期中期計画期間に合わせて策定された施設整備計画に基づいて施設及び機器等の整備を実施した。 ・計画的に実施する一方で、策定時から情勢の変化があった場合には計画の見直しを図った。 ・総合病院本館の既存不適格に対応するため、防排煙設備の一部について、本年度から翌年度にかけて改修を行っている。 ・先端医学棟(5階建 延床面積約20,569.6㎡)の平成29年度開棟に向けて、建設工事を進めた。 ・立体駐車場の実施設計を完了し、工事発注手続を進め、3月上旬に施工業者を決定することができた。	A	(実績に対する評価) 総合病院の先端医学棟建設については、平成27年度に着工、平成29年6月末竣工予定。手術室22室、放射線治療室、リサーチサポートセンター等を設置する。 第1立体駐車場については、平成29年3月に着工し、平成30年8月末にオープン、平成30年10月末に工事完了の予定。 こどもの新外来については、昨年度の新棟に引き続き、既存棟の改修工事をを行い、平成28年2月からフルオープンで外来診療を開始した。	先端医学棟の整備は平成29年9月開棟に向けて予定どおり進捗している。 立体駐車場整備でも静岡市との特例許可に係る調整等が順調に行われ、当初見込みよりも前倒しで工事着手した。 県の医療水準の向上、患者サービスの改善に取り組んでいる。
	I 1 (3) ケ (ア)	28	当直等の勤務体系を考慮した冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に24時間365日体制を構築し、高度専門診療を提供する。	総合 ・循環器病センター3階のCCU/ICUを24時間体制(看護配置2:1)で12床稼働している。 ・心臓リハビリについても充実を図り、施設基準においてもⅡからⅠへのランクアップを実現した。 ・TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)の施設基準を取得し、平成27年度は4例実施した。平成28年度は28例実施した。	A-	循環器内科は循環器病センターの機能を活かして高度な専門的治療を提供し稼働している。 部会において特定集中治療管理料の施設基準ランクアップについて積極的に検討を行った。次年度でランクアップ及び増床を目指す。	循環器病センターのCCU/ICUについて、平成28年7月から人員体制の整備により10床から12床に増床した上で高い病床稼働率を維持しており、TAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)を初めとした高度医療を提供している。
		29	脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	総合 ・平成24年度より開始した土曜日(第2、第4)のリハビリテーションを継続実施している。 ・脳卒中の地域連携クリニカルパスを運用している。 ・脳血管内治療のできる医師を確保した。(脳神経外科) ・平成28年度診療報酬改定で脳卒中地域連携診療計画料から地域連携診療計画加算に名称変更となった。	A	(実績に対する評価) 脳血管疾患治療等の推進が期待できる体制が整いつつある。 (課題) 引き続き、医師、看護師、リハビリスタッフの確保に努力し、SCU等脳卒中救急患者受入体制の更なる整備を図りたい。	5階病棟に脳卒中専門病棟を設け、27年度からは脳血管内治療専門医を確保するなど急性期からの集中的な治療・看護等を実施している。在宅復帰に向けた取組については地域連携クリニカルパスの運用等により診療報酬においても評価され、算定件数が大幅に増加している。
	30	生活習慣病を総合的血管疾患としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	総合 関係科の医師及びコメディカルによる合同検討会(下肢救済チーム)を開催し、スタッフが協力して患者の治療にあたるチーム医療の連携を推進している。	A-	チーム医療の推進に向けての検討を進めることができた。	医師、コメディカルによる合同検討会を年10回開催しており、PAD(末梢動脈疾患)のスクリーニングでは834例/年のスクリーニングを実施(239例が陽性)するなど、関係科によるチーム医療が進められている。	
	31	ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	総合 ・平成26年10月から稼働開始した。	A	平成26年10月からハイブリッドオペ室を運用し、先進医療に取り組んでいる。27年度はTAVI(経カテーテル大動脈弁置換術)の施設基準を取得し、平成28年度は28件実施している。	ハイブリッド手術室の使用件数は順調に推移しており、TAVIを28件実施するなど高度医療が提供されている。先端医学棟の建設により、画像撮影検査機能を併せ持つハイブリッド手術室が整備されるなど、さらに高度医療を提供できる環境が整う。	

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

No.	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																							
					説明																									
第1 1 医療の提供	I 1 (3) ケ ケ (ア) がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①手術治療、放射線治療、化学療法治療に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用を泌尿器科領域、婦人科領域のみならず消化器外科領域へ展開する試み	32	がん患者が受診後速やかに検査や手術を受けられる体制を構築するため、手術室、内視鏡室、放射線科のスタッフを増員する。	総合 ・麻酔科医1名、消化器内科医1名の増員（H28.4月増）が実現できた。 ・手術支援ロボット(ダヴィンチ)を導入し、泌尿器科領域、産婦人科領域、消化器外科領域において運用している。 NO. 32 ダヴィンチ使用手術件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>泌尿器科</th> <th>婦人科</th> <th>消化器外科</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26年度</td> <td>31</td> <td>5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>77</td> <td>4</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>28年度</td> <td>102</td> <td>1</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> ・ダヴィンチを用いた腹腔鏡下膀胱全摘術 平成28年10月より自由診療開始 ・ダヴィンチを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 平成28年12月より先進医療開始	年度	泌尿器科	婦人科	消化器外科	26年度	31	5	—	27年度	77	4	—	28年度	102	1	9	A	(実績に対する評価) 化学療法、手術、放射線治療とも十分に提供できている。新たにダヴィンチを用いた手術の適用を拡大した。 (課題) 引き続き麻酔科医、放射線科医、消化器内科医の確保に努める。	本年度から麻酔科医1名、消化器内科医1名を増員し、ダヴィンチ使用の手術件数が着実に増加している。泌尿器科、婦人科に加えて消化器での手術に適用され、がん患者の手術体制が充実されている。							
		年度	泌尿器科	婦人科	消化器外科																									
		26年度	31	5	—																									
		27年度	77	4	—																									
		28年度	102	1	9																									
33	外来化学療法センターの拡充と環境整備を行うとともに、スタッフの専門性を向上する。	総合 ・外来化学療法センターは、専門の認定看護師1名と認定薬剤師6名を配置し、40床のベッドを活用し、安心・安全な治療に貢献している。 ・平成26年5月厚生労働省より抗がん剤ばく露防止に関する課長通知が出され、現在の抗がん剤調製室の設備改善が必要となった。 ・先端医学棟建設後の跡地利用の中で中央滅菌材料室跡地に移転する設計を完了した。	A	(実績に対する評価) 外来化学療法室の機能拡充により、患者サービスの向上と件数を維持している。 (課題) 引き続き腫瘍内科の医師の確保に努める。	外来化学療法の件数については昨年比335件と増加している。 化学療法の専門である腫瘍内科医の確保が必要。																									
34	・地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。 ・精神科医の確保を目指し、緩和ケアの充実に繋げる。	総合 ・緩和ケアチーム介入症例数 平成28年度実績：372件 (5 E病棟がん257件、5 E病棟外がん109件、5 E病棟がん以外1件、5 E病棟外がん以外5件) No. 34-1 緩和ケアチーム介入症例数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>426</td> <td>381</td> <td>403</td> <td>372</td> </tr> </tbody> </table> No. 34-2 拡大がんセンターボード <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>5回</td> <td>5回</td> <td>6回</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>237人</td> <td>228人</td> <td>422人</td> <td>332人</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	症例数	426	381	403	372	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	開催回数	5回	5回	6回	6回	参加者数	237人	228人	422人	332人	A-	(実績に対する評価) がん疾患患者に対して、緩和ケアチームが積極的に介入して、介入数は増加傾向にある。 (課題) 常勤の精神科医が不在なため、診療報酬に結びついていない。	緩和ケアに関しては他医療機関からの求めに応じて患者を受け入れているが、前年度実績と比べると、介入症例数、がんセンターボード参加者数ともに減少している。 常勤精神科医が確保できておらず、緩和ケア体制の整備及び経営面（診療報酬）において課題が残されている。
区分	25年度	26年度	27年度	28年度																										
症例数	426	381	403	372																										
区分	25年度	26年度	27年度	28年度																										
開催回数	5回	5回	6回	6回																										
参加者数	237人	228人	422人	332人																										
35	がんに関する相談支援の窓口を一本化し、情報の提供・発信の強化を図るため、がん相談窓口のスタッフを増強する。	総合 NO. 35 がん相談件数 (単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>2,457</td> <td>3,784</td> <td>3,065</td> <td>4,587</td> </tr> </tbody> </table>	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587	A	専従看護師1名及び専任看護師1名が相談にあたるほか、入退院センター看護師も入院前からがん相談に対応している。また、がん化学療法の認定看護師1名も専任で相談にあたり、相談件数も増加している。	患者へのサポートにおいて、専従の相談看護師等7人体制でがん相談に応じており、相談件数は大きく増加している。															
区分	25年度	26年度	27年度	28年度																										
がん相談	2,457	3,784	3,065	4,587																										
36	消化器外科領域でのロボット支援手術の活用に向けた準備を行う。	総合 臨床研究 平成28年度 ロボット支援手術（消化器外科領域）9件実施	A	(実績に対する評価) 現在は臨床研究段階だが着実に実績件数を増やしている。症例数が集まり次第、自由診療へ移行する予定。 (課題) 件数の増加と適応疾患の拡大	ダヴィンチを活用した消化器外科領域における手術については28年度から臨床が開始された。(件数:9件) 泌尿器科、産婦人科でも積極的に活用されており、28年度には腹腔鏡下膀胱全摘術の自由診療や下子宮広汎全摘術の先進医療を開始している。																									
37	重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実	総合 医師の増員を図るとともに、勤務体系にも配慮した当直・日直体制を整備する。 NO. 37 医師の変則勤務試行状況 (単位:%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,500</td> <td>1,547</td> <td>1,444</td> <td>1,634</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>810</td> <td>924</td> <td>935</td> <td>961</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>54.0</td> <td>59.7</td> <td>64.7</td> <td>58.8</td> </tr> </tbody> </table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	該当者(人)	1,500	1,547	1,444	1,634	利用者(人)	810	924	935	961	利用率(%)	54.0	59.7	64.7	58.8	A	救急委員会を中心にして効果的な制度設計を検討し救急患者の受入体制を維持しており、中期目標が十分達成されている。	平成27年度末に高度救命救急センターに指定され、本年度からは救急科医師8人体制で稼働している。医師の変則勤務の試行を継続して行っており、当直明けに休むことで医師の負担を軽減する勤務体系がとられている。					
区分	25年度	26年度	27年度	28年度																										
該当者(人)	1,500	1,547	1,444	1,634																										
利用者(人)	810	924	935	961																										
利用率(%)	54.0	59.7	64.7	58.8																										

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																			
					説明																																					
第1 1 医療の提供	I 1 (3) ケ (ア)		重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実	38 ・救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、近隣地域との新たな協定締結を目指す。	総合 NO.38 救急車受入率 (単位:%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>25年度</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>当番日</td><td>97.4</td><td>94.2</td><td>97.1</td><td>96.5</td></tr> <tr><td>全日</td><td>91.9</td><td>89.3</td><td>93.0</td><td>93.1</td></tr> </table> ・特殊疾病患者受入件数(27年度実績) 重症熱傷:14件 重症外傷:368件 急性中毒:18件 病院外心停止:210件 ・ドクターカー出動件数 平成27年度:4件 平成28年度:7件 ・協定書締結市町数 静岡市、富士市、富士宮市	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	当番日	97.4	94.2	97.1	96.5	全日	91.9	89.3	93.0	93.1	A	救急車の受入を断らない体制が維持され、救急車の受入台数及び受入率も順調に増加している。	救急搬送患者の受入れにおいては、当番日における救急車搬送患者の受入率が96.58%と高い水準を維持している。 富士市・富士宮市との協定締結(H27末)以降、行動計画に上げられた新たな協定締結はなされていない。																			
	区分	25年度	26年度	27年度	28年度																																					
	当番日	97.4	94.2	97.1	96.5																																					
全日	91.9	89.3	93.0	93.1																																						
I 1 (3) ケ (イ)		精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①救急患者が常時受け入れ可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備 ②24時間365日精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備	24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	こころ ・県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応した。 ・当センター広報誌「ぬくもり」への掲載頻度を増やし、広報に努めた。 ・当センターホームページに「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し周知を図った。 NO.39 精神科救急ダイヤル件数 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>全相談件数</td><td>2,605</td><td>4,174</td><td>3,956</td></tr> <tr><td>うち時間外</td><td>2,049</td><td>3,174</td><td>2,082</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	全相談件数	2,605	4,174	3,956	うち時間外	2,049	3,174	2,082	A-	(実績に対する評価) 県内全域を対象とし、患者、家族だけでなく、医療機関や関係施設等などからの相談に対応し、精神科救急ダイヤルとしての責務を果たした。 また、相談件数も例年並みの件数となり、広報活動の成果が表れている。 (課題) 相談件数は昨年同様多く、今後もこの状態を維持するため、一層の周知を図る。	県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」では24時間体制で救急医療相談に対応しており、年間4,000件程度の相談に対応している。新たな入院患者が90日以内に退院できる体制整備のためにも24時間体制の相談体制は必要である。																							
区分	26年度	27年度	28年度																																							
全相談件数	2,605	4,174	3,956																																							
うち時間外	2,049	3,174	2,082																																							
	他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組	41	薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。	こころ 平成21年7月から開始したm-ECTの治療を本年度も継続して積極的に実施している。 NO.41 m-ECT実施件数 (単位:人) <table border="1"> <tr><th rowspan="2">区分</th><th rowspan="2">延件数(件)</th><th rowspan="2">実患者数</th><th colspan="4">地区別</th></tr> <tr><th>中部地区(静岡市)</th><th>東部地区</th><th>西部地区</th><th>その他</th></tr> <tr><td>26年度</td><td>836</td><td>68</td><td>61</td><td>50</td><td>3</td><td>3</td><td>1</td></tr> <tr><td>27年度</td><td>596</td><td>53</td><td>47</td><td>32</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>28年度</td><td>605</td><td>54</td><td>51</td><td>43</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td></tr> </table>	区分	延件数(件)	実患者数	地区別				中部地区(静岡市)	東部地区	西部地区	その他	26年度	836	68	61	50	3	3	1	27年度	596	53	47	32	4	1	1	28年度	605	54	51	43	2	1	0	A	(実績に対する評価) 本年度も積極的にm-ECTの治療を継続して実施した。 県中部、富士地区でm-ECTを実施しているのは当センターのみであり、中部地区を中心に患者を受け入れている。 (課題) 麻酔科医については、現在外部より招聘しているが、今後は法人内部での確保を目指す。	地域で唯一のm-ECTの治療を実施している病院として、静岡市を中心に処置をしている。m-ECTによる治療を求めて他の病院から転院してくる患者がいるなど効果が出ている。 治療に必要な麻酔科医は外部から招聘して確保しており、正規職員の採用による安定的な医師確保について第1期から引き続いて課題となっている。
区分	延件数(件)	実患者数	地区別																																							
			中部地区(静岡市)	東部地区	西部地区	その他																																				
26年度	836	68	61	50	3	3	1																																			
27年度	596	53	47	32	4	1	1																																			
28年度	605	54	51	43	2	1	0																																			

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																							
					説明																																																									
第1 1 医療の提供	I 1 (3) ケ (イ) 他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度医療（クロザピン、m-ECT（修正型電気けいれん療法）、心理・社会的治療（心理教育、家族教室等））への取組	42	治療抵抗性の症例に対する治療として、先端薬物療法（クロザピンなど）を積極的に実施する。	ここ こ ろ ・クロザピンによる治療体制が整い、平成22年4月27日、クロザリル適正使用委員会において、CPMS（クロザリル患者モニタリングサービス）登録機関として承認された。 ・静岡県内では、浜松医科大学医学部付属病院、聖隷三方原病院に次いで3番目の登録である。 ・平成23年度に作成したクリニカルパスに基づき治療を開始し、これまでに39名の患者に投与している。現在30名に対して継続投与中である。 NO.42 登録機関の状況 (H29.4.27時点) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>全国</th> <th>静岡県</th> </tr> <tr> <td>CPMS登録機関数</td> <td>366</td> <td>7</td> </tr> </table>	区分	全国	静岡県	CPMS登録機関数	366	7	A	（実績に対する評価） 平成23年6月から治療を開始し、これまでに39名の患者に投与し、このうち30名が継続治療している。大きな治療効果が認められる症例も見られるため、今後も患者の安全を確保しつつ治療に取り組む。 （課題） クロザピンによる治療は、重篤な副作用も懸念されることから、治療にあたっては副作用回避マニュアルに基づき、十分な安全対策を今後も継続する必要がある。	県内の医療機関でも処方できる病院は限られているなかで（県内で7病院）、こころの医療センターではクロザピンによる治療を着実に実施している。																																																	
					区分	全国	静岡県																																																							
	CPMS登録機関数	366	7																																																											
	43	心理・社会的治療についての取組を継続実施する。	ここ こ ろ ・平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。 ・研修会の開催 (H28.7,8,9) 心理教育に関する院内研修会を開催 ・治療の実施 平成23年11月から、各病棟等において選定した患者を対象に治療を実施	A-	（実績に対する評価） 退院後の地域における安定した生活の維持、再入院の防止のためには、入院中からの患者への心理教育が重要なことから、プロジェクトを進展させ、病院全体として取り組んでいる。今後は各病棟等において実践することにより、患者の在宅への移行の促進が期待できる。 （課題） 心理教育の実践を診療報酬の算定にいかにつなげるかの検討が必要。	薬物療法のみには頼らない治療法として心理・社会的治療に対する社会的要請が高まっていることから、心理教育・家族教室の実践に向けての取組を強化し、統一テキストの作成等を実施した。																																																								
○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築	44	在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア（ACT）チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。	ここ こ ろ ・平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を開始した。 平成22年2月の支援開始以来延べ19名の支援活動を実施し、うち9名は安定した在宅生活に移行したため支援終了、1名は転院により支援終了、2名は死亡により終了、現在は、外来患者7名への支援を継続している。 NO.44 ACT実施状況 <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>対象者</th> <th>活動状況</th> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>7人</td> <td>多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>0人</td> <td>—</td> </tr> </table>	区分	対象者		活動状況	外来	7人	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス	入院	0人	—	A-	（実績に対する評価） 平成21年度に実施したガイドラインの作成とモデルケースでの検証を受け、ACTとしての活動が開始された。着実に事業は進められている。 （課題） 当センターが目指す24時間365日のサポート体制による地域支援を行うには、収益を確保することが重要であり、診療報酬での評価につながるような働きかけが必要である。	在宅医療の取組は、長期入院患者の退院促進、算定外患者の減少といった経営改善に向けた効果も期待できる。 また、支援の結果、在宅生活に移行して現在も家庭等で生活している人もおり、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針の実現に貢献している。 更なる強化拡充には継続的な収益の確保が重要であるため、今後の診療報酬改定に関する情報収集を積極的に進め、必要な対策を適宜検討する必要がある。																																														
				区分	対象者	活動状況																																																								
外来	7人	多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																												
入院	0人	—																																																												
45	医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心身喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への、指定医療機関としての積極的な関与	ここ こ ろ ・平成21年8月より指定入院医療機関として2床で運用を開始、平成23年3月末には12床への増床が完了した。 ・増床完了後対象患者の受入が進んだ結果、平成23年8月以降ほぼ満床の状態が1年以上続く等高い利用率で推移している。 NO.45 医療観察法収支状況 (単位：千円) <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度計画</th> <th>28年度</th> </tr> <tr> <td>延患者数(人)</td> <td>4,277</td> <td>4,210</td> <td>4,342</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>97.4</td> <td>97.3</td> <td>99.1</td> </tr> <tr> <td>入院単価(円/人)</td> <td>50,391</td> <td>50,120</td> <td>48,769</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">収支状況</td> <td>医療収益</td> <td>215,524</td> <td>212,805</td> <td>213,609</td> </tr> <tr> <td>入院収益</td> <td>215,524</td> <td>210,984</td> <td>213,609</td> </tr> <tr> <td>運営費負担金</td> <td>0</td> <td>1,821</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療費用</td> <td>182,789</td> <td>192,295</td> <td>185,871</td> </tr> <tr> <td>人件費</td> <td>174,497</td> <td>183,057</td> <td>177,584</td> </tr> <tr> <td>薬品費</td> <td>3,369</td> <td>3,791</td> <td>3,346</td> </tr> <tr> <td>診療材料費</td> <td>1,115</td> <td>1,640</td> <td>1,133</td> </tr> <tr> <td>減価償却費</td> <td>1,343</td> <td>1,343</td> <td>1,343</td> </tr> <tr> <td>その他経費</td> <td>2,465</td> <td>2,465</td> <td>2,465</td> </tr> <tr> <td>医療収支</td> <td>32,735</td> <td>20,510</td> <td>27,738</td> </tr> </table>	区分	27年度	28年度計画	28年度	延患者数(人)	4,277	4,210	4,342	病床利用率(%)	97.4	97.3	99.1	入院単価(円/人)	50,391	50,120	48,769	収支状況	医療収益	215,524	212,805	213,609	入院収益	215,524	210,984	213,609	運営費負担金	0	1,821	0	医療費用	182,789	192,295	185,871	人件費	174,497	183,057	177,584	薬品費	3,369	3,791	3,346	診療材料費	1,115	1,640	1,133	減価償却費	1,343	1,343	1,343	その他経費	2,465	2,465	2,465	医療収支	32,735	20,510	27,738	A-	（実績に対する評価） 平成21年8月の運用開始以降、法令に添った適正な運用がされている。また、施設の拡充により機能充実が図られ、県内の対象患者の受入れが進み、患者一人一人に対応したきめ細かな治療プログラムの作成による社会復帰に努めた。 年間を通じて満床に近い状態が続いており、収支もほぼ当初見込みどおり確保された。 （課題） 施設の拡充に伴い、入院対象者も増加し、その病態も多彩となってくる。よりよい医療を提供するため、スタッフの一層のレベルアップが必要となる。	当該病床は毎年ほぼ100%に近い病床稼働率を維持している。 地域連携や治療プログラム等の先進事例や入院処遇の長期化、地域におけるサポート体制の整備等にかかる問題提起報告などを目的に開催される研究会への参加や、厚生労働省が実施する「医療観察法指定入院医療機関医療評価・向上事業」へ参加するなど、職員のスキルアップ向上に努めている。
区分	27年度	28年度計画	28年度																																																											
延患者数(人)	4,277	4,210	4,342																																																											
病床利用率(%)	97.4	97.3	99.1																																																											
入院単価(円/人)	50,391	50,120	48,769																																																											
収支状況	医療収益	215,524	212,805	213,609																																																										
	入院収益	215,524	210,984	213,609																																																										
	運営費負担金	0	1,821	0																																																										
	医療費用	182,789	192,295	185,871																																																										
	人件費	174,497	183,057	177,584																																																										
	薬品費	3,369	3,791	3,346																																																										
	診療材料費	1,115	1,640	1,133																																																										
	減価償却費	1,343	1,343	1,343																																																										
その他経費	2,465	2,465	2,465																																																											
医療収支	32,735	20,510	27,738																																																											

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																															
					説明																																																	
第1 1 医療の提供	I 1 (3) ケ (ウ) 小児重症心疾患患者に対し、24時間を通して高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ24時間対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)、新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ④ハイブリッド手術の適用拡大 ⑤西3病室(3室)の準重症患者対応病室への改修	46	①CCUの体制維持 ②PICU、NICUとの連携、相互研修等を通じ機能を強化する。 ③継続実施と、対象施設拡大について検討する。 ④ハイブリッド手術の小児への適用症例拡大を検討する。 ⑤3室の間の仕切り壁を撤去し、準重症患者を管理する病室に改修する。	NO. 46 CCU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>3,553</td><td>3,745</td><td>3,297</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>87.2</td><td>85.3</td><td>87.4</td></tr> </table> 心臓カテーテル治療実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>H28目標</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>実施件数</td><td>133</td><td>156</td><td>150</td><td>170</td></tr> </table> ハイブリッド手術実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>件数</td><td>6</td><td>12</td><td>12</td></tr> </table> ・循環器病棟に準重症患者対応病室を設置した。 ・自治体立病院では全国初、小児専門病院では全国2番目となる小児用補助人工心臓を導入した。	区分	26年度	27年度	28年度	入院延患者数	3,553	3,745	3,297	病床稼働率	87.2	85.3	87.4	区分	26年度	27年度	H28目標	28年度	実施件数	133	156	150	170	区分	26年度	27年度	28年度	件数	6	12	12	A	(実績に対する評価) ・多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。 ・ハイブリッド手術室では、月1回以上のペースで手術を行うとともに、心臓カテーテル治療件数も順調に推移している。 ・準重症患者対応病室を設置し、小児重症心疾患患者を受け入れる体制の拡充を図った。 ・小児用補助人工心臓を導入し、心臓移植が必要な小児患者の治療を移植直前まで可能とする体制を整備した。	こども病院では重篤な小児患者が多く来院するため、医療提供上の必要性から、CCU(心臓病の集中治療室)及び新生児集中治療室(NICU)の入院期間が長くなる傾向にあるが、入院が15日を超えた場合、現在の診療報酬上ではICU加算を算定することができない。 そこでCCUの後方支援病室として準重症患者対応病室を4室整備したことにより、CCUから回復傾向にある患者を準重症病室に移行させることで、より重篤な患者をCCUで新たに受け入れることが可能になるなど、患者のスムーズな移行及び収益の増加に効果が見られた。 また、補助人工心臓装置を導入したことにより、これまで他病院への転院を余儀なくされていた患者の治療を、移植直前まで万全に行えるようになり、患者サービスの向上に寄与した。																	
					区分	26年度	27年度	28年度																																														
					入院延患者数	3,553	3,745	3,297																																														
病床稼働率	87.2	85.3	87.4																																																			
区分	26年度	27年度	H28目標	28年度																																																		
実施件数	133	156	150	170																																																		
区分	26年度	27年度	28年度																																																			
件数	6	12	12																																																			
地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①すべてのハイリスク出産に対応できるシステム作り ②先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ③新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施	47	①地域の産科医療機関との前方・後方連携を更に強化、症例検討会・研修会を通じ産科医の診断能力向上を図る。 ②最新式の超音波診断装置を導入する。 ③NICU内での低侵襲手術の継続	NO. 47 地域医療機関向け研修会等開催実績 (単位:回、人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>研修会等回数</td><td>17</td><td>14</td><td>10</td></tr> <tr><td>参加者数</td><td>961</td><td>743</td><td>637</td></tr> </table> NICU診療実績 (単位:人、%) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>5,410</td><td>5,927</td><td>6411</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>98.8</td><td>95.3</td><td>97.6</td></tr> </table> 新生児出生体重別入院患者実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>体重(g)</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>500未満</td><td>2</td><td>3</td><td>7</td></tr> <tr><td>500~1,000</td><td>48</td><td>26</td><td>36</td></tr> <tr><td>1,000~1,500</td><td>44</td><td>36</td><td>22</td></tr> <tr><td>1,500以上</td><td>148</td><td>160</td><td>144</td></tr> <tr><td>合計</td><td>242</td><td>225</td><td>209</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	研修会等回数	17	14	10	参加者数	961	743	637	区分	26年度	27年度	28年度	入院延患者数	5,410	5,927	6411	病床稼働率	98.8	95.3	97.6	体重(g)	26年度	27年度	28年度	500未満	2	3	7	500~1,000	48	26	36	1,000~1,500	44	36	22	1,500以上	148	160	144	合計	242	225	209	A	(実績に対する評価) ・地域医療機関を対象とした研修会、検討会を定期的で開催し、地域の周産期医療のレベルアップを図った。 ・NICUの入院延患者数は増加傾向にある。 ・他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れた。	平成27年8月にNICU病床数を増加(15床⇒18床)したことにより、28年度は入院患者数も増加しており、病床利用率も回復傾向にある。 病症検討会や研修会を開催しており、地域全体の周産期医療技術の向上に貢献している。
				区分	26年度	27年度	28年度																																															
研修会等回数	17	14	10																																																			
参加者数	961	743	637																																																			
区分	26年度	27年度	28年度																																																			
入院延患者数	5,410	5,927	6411																																																			
病床稼働率	98.8	95.3	97.6																																																			
体重(g)	26年度	27年度	28年度																																																			
500未満	2	3	7																																																			
500~1,000	48	26	36																																																			
1,000~1,500	44	36	22																																																			
1,500以上	148	160	144																																																			
合計	242	225	209																																																			
小児がん診療の連携拠点病院として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、静岡県小児がん拠点病院としての機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化	48	・静岡県小児がん拠点病院として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ・小児がん連携拠点病院の指定を視野にいたった体制の強化 ・県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスの実施	NO. 48 血液腫瘍科延患者数実績 (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>入院</td><td>6,947</td><td>9,613</td><td>8,301</td></tr> <tr><td>外来</td><td>3,396</td><td>3,533</td><td>3,691</td></tr> </table> NO. 19、48 造血幹細胞移植実績 (単位:件) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>骨髄移植</td><td>9</td><td>4</td><td>4</td></tr> <tr><td>臍帯血</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td></tr> <tr><td>自家末梢血</td><td>2</td><td>8</td><td>5</td></tr> <tr><td>同種末梢血</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td></tr> <tr><td>計</td><td>13</td><td>13</td><td>11</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	入院	6,947	9,613	8,301	外来	3,396	3,533	3,691	区分	26年度	27年度	28年度	骨髄移植	9	4	4	臍帯血	1	0	2	自家末梢血	2	8	5	同種末梢血	1	1	0	計	13	13	11	A	(実績に対する評価) ・平成21年度に指定された静岡県小児がん拠点病院として、県内小児がん患者の半数以上を受入れ、固形がんについても脳神経外科等との連携のもと対応している。 (課題) ・がん登録の推進。	県内の小児がん患者326名のうち192名(約6割)を受け入れており、小児がん診療拠点病院としての役割を果たしている。 固形腫瘍について、関係診療科の協働連携による「腫瘍カンファレンス」を開催するなど、静岡県小児がん拠点病院として高度な集学的治療に取り組み、県内の小児がん患者の約6割に対応することにつながっている。												
区分				26年度	27年度	28年度																																																
入院	6,947	9,613	8,301																																																			
外来	3,396	3,533	3,691																																																			
区分	26年度	27年度	28年度																																																			
骨髄移植	9	4	4																																																			
臍帯血	1	0	2																																																			
自家末梢血	2	8	5																																																			
同種末梢血	1	1	0																																																			
計	13	13	11																																																			

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																										
					説明																																												
第1 1 医療の提供	I 1 (3) ケ ウ	24時間を通して重篤な小児救急患者を受け入れる体制の維持及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実	49	<p>・PICU（小児集中治療センター）・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ・小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ・院内の小児救急専門スタッフ（医師、看護師）育成と院外からの研修受入</p>	<p>NO. 49</p> <p>PICU診療実績 (単位：人、%)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>2,502</td><td>2,565</td><td>2,462</td></tr> <tr><td>病床稼働率</td><td>85.4</td><td>87.6</td><td>84.3</td></tr> </table> <p>ER診療実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>入院患者数</td><td>1,734</td><td>1,716</td><td>1,338</td></tr> <tr><td>外来患者数</td><td>4,792</td><td>4,949</td><td>4,170</td></tr> </table> <p>ドクターヘリ搬送実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>回数</td><td>70</td><td>45</td><td>35</td></tr> </table> <p>ドクターカー出動実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>回数</td><td>313</td><td>291</td><td>298</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	入院延患者数	2,502	2,565	2,462	病床稼働率	85.4	87.6	84.3	区分	26年度	27年度	28年度	入院患者数	1,734	1,716	1,338	外来患者数	4,792	4,949	4,170	区分	26年度	27年度	28年度	回数	70	45	35	区分	26年度	27年度	28年度	回数	313	291	298	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>・小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れた。 ・ER開設以降、富士富士宮、志太榛原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補完している。 ・静岡市の2次救急当番日数の減少に伴い、ERの受診患者が減少した。</p>	<p>常勤医師7名と後期研修医16名による交代制により、24時間365日の救急対応を行っている。28年度はER受診患者数が減少しているが、これは静岡市内の他施設の体制が整備されたため2次救急当番日が減少した影響であり、引き続き小児救急患者の受入を行っている。</p>	
				区分	26年度	27年度	28年度																																										
				入院延患者数	2,502	2,565	2,462																																										
				病床稼働率	85.4	87.6	84.3																																										
区分	26年度	27年度	28年度																																														
入院患者数	1,734	1,716	1,338																																														
外来患者数	4,792	4,949	4,170																																														
区分	26年度	27年度	28年度																																														
回数	70	45	35																																														
区分	26年度	27年度	28年度																																														
回数	313	291	298																																														
50	<p>患者の重症度に応じた地域の医療機関との機能分担を推進するため、地域の救急医療機関や消防機関との検討会を定期的に開催する。</p>	<p>NO. 50</p> <p>H28救急関係研修会等開催実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>対象</th><th>参加者数</th></tr> <tr><td>小児救命救急研究会</td><td>小児医療、救急医療関係者</td><td>150</td></tr> <tr><td>救急救命士再教育病院実習</td><td>救急救命士</td><td>6</td></tr> </table> <p>※H28年度末時点</p>	区分	対象	参加者数	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	150	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図った。</p>	<p>救急医療関係者等を対象とした研修会を開催し、スキルアップが図られている。</p>																																			
区分	対象	参加者数																																															
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	150																																															
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6																																															
51	<p>子どものこころの診療分野の県内における中核的機能の発揮 ①子どもの精神科専門病棟を有するこども病院としての強みを発揮 ②「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ③臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成</p>	<p>NO. 51</p> <p>こころの診療科診療実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>入院延患者数</td><td>10,546</td><td>9,455</td><td>10,086</td></tr> <tr><td>入院新患者数</td><td>44</td><td>54</td><td>54</td></tr> <tr><td>外来延患者数</td><td>12,331</td><td>12,532</td><td>12,311</td></tr> <tr><td>外来初診患者数</td><td>540</td><td>492</td><td>477</td></tr> </table> <p>こころの診療科地域別実患者数実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>東部</td><td>715</td><td>732</td><td>755</td></tr> <tr><td>中部</td><td>1,034</td><td>1,094</td><td>1,077</td></tr> <tr><td>西部</td><td>53</td><td>52</td><td>54</td></tr> <tr><td>県外</td><td>11</td><td>7</td><td>10</td></tr> <tr><td>合計</td><td>1,802</td><td>1,878</td><td>1,896</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	入院延患者数	10,546	9,455	10,086	入院新患者数	44	54	54	外来延患者数	12,331	12,532	12,311	外来初診患者数	540	492	477	区分	26年度	27年度	28年度	東部	715	732	755	中部	1,034	1,094	1,077	西部	53	52	54	県外	11	7	10	合計	1,802	1,878	1,896	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>・中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れた。 (課題) 発達障害の受診が増大し、外来診療の負担増となっているため、発達小児科や神経科とともに、今後の診療体制を検討する必要がある。</p>	<p>増加するこどもの心の問題に対応するため、静岡市内だけでなく東部地域からも積極的に患者を受け入れている。</p>
区分	26年度	27年度	28年度																																														
入院延患者数	10,546	9,455	10,086																																														
入院新患者数	44	54	54																																														
外来延患者数	12,331	12,532	12,311																																														
外来初診患者数	540	492	477																																														
区分	26年度	27年度	28年度																																														
東部	715	732	755																																														
中部	1,034	1,094	1,077																																														
西部	53	52	54																																														
県外	11	7	10																																														
合計	1,802	1,878	1,896																																														
52	<p>厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。</p>	<p>NO. 52、99</p> <p>H28精神保健講座等開催実績 (H28年度末時点)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>対象</th><th>参加者数等</th></tr> <tr><td>精神保健講座</td><td>県内小中学校教諭</td><td>5回 135人</td></tr> <tr><td>児童養護施設巡回相談</td><td>こども・家族</td><td>10回 10施設</td></tr> </table>	区分	対象	参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭	5回 135人	児童養護施設巡回相談	こども・家族	10回 10施設	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>・急増する子どもの心の問題に関するネットワーク構築のため、学校・地域との連携強化を図り、県内の小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たしている。</p>	<p>子どもの心の診療ネットワーク事業における静岡県の拠点病院として、学校関係者や家族への情報提供や研修会、巡回相談を開催している。28年度の巡回相談実施回数は常勤医師の休職により施設数を1減らし、過去2年と比較して少なくなっている (H27：22回11施設、H26：20回10施設) が、引き続き県内小児精神保健ネットワークの中核的な役割を果たされている。</p>																																			
区分	対象	参加者数等																																															
精神保健講座	県内小中学校教諭	5回 135人																																															
児童養護施設巡回相談	こども・家族	10回 10施設																																															
53	<p>児童精神科医の育成</p>	<p>NO. 53</p> <p>有期職員医師採用実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>26年度</th><th>27年度</th><th>28年度</th></tr> <tr><td>採用人数</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	採用人数	1	1	1	A	<p>(実績に対する評価)</p> <p>児童精神科臨床研修として有期職員医師を採用し、児童精神科医の育成および県内外への児童精神科医の供給を図った。</p>	<p>有期職員は1年間等、期間を定めて雇用している職員のこと (研修医ではない)。児童精神科を継続的に育成することにより、地域医療に貢献している。</p>																																				
区分	26年度	27年度	28年度																																														
採用人数	1	1	1																																														

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																																																																																								
					説明																																																																																																																										
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	1 2	54	医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	総合 No. 54 総合病院正規職員数(医師除く) (単位:人)	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>H27.4.1</th> <th>H28.4.1</th> <th>H29.4.1</th> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>683</td> <td>747</td> <td>804</td> </tr> <tr> <td>医療技術者</td> <td>211</td> <td>204</td> <td>201</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>52</td> </tr> </table>		区分	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1	看護師	683	747	804	医療技術者	211	204	201	事務	49	51	52	A 人材確保対策本部を設置し、キャラバン隊による県外養成校の訪問や広報活動の強化、看護師就学貸与制度の拡充等の多岐にわたる新たな取組を導入し、積極的な人材確保に努めた結果、28年度随時採用を含めて96名の看護師を採用した。	院長代理を中心に組織されたキャラバン隊による、県外の看護師養成校における募集広報の実施や就学資金・支度金の貸与などの取組により、看護師の確保につながっている。																																																																																																							
					区分	H27.4.1	H28.4.1	H29.4.1																																																																																																																							
		看護師	683	747	804																																																																																																																										
医療技術者	211	204	201																																																																																																																												
事務	49	51	52																																																																																																																												
55	研修医の確保に努める。	総合 No. 55 初期臨床研修医数 (単位:人)	<table border="1"> <tr> <th>初期臨床研修医</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> <tr> <td>1年生</td> <td>18(3)</td> <td>19(2)</td> <td>21(2)</td> <td>20(2)</td> <td>20(2)</td> <td>19(2)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>14(3)</td> <td>17(3)</td> <td>22(2)</td> <td>22(2)</td> <td>19(2)</td> <td>20(2)</td> </tr> </table> ※()うち自治医数		初期臨床研修医	H24	H25	H26	H27	H28	H29	1年生	18(3)	19(2)	21(2)	20(2)	20(2)	19(2)	2年生	14(3)	17(3)	22(2)	22(2)	19(2)	20(2)	A (実績に対する評価) 研修医の確保については、一般プログラム19名(1次募集14名、2次募集(継続中)3名、自治医2名)、産婦人科プログラム1名のマッチングとなっている。 (課題) 2年連続で2次募集を行っている。レジナビ等で当院のブースに来ていただいた学生を病院見学や採用試験の受験へ結びつけられるよう、積極的にコンタクトをとり効果的な採用活動を行う必要がある。	近年は、一般プログラムに加え、小児科や産婦人科のプログラムを追加し、県内で不足している小児科医及び産婦人科医の確保に努めている。H27~28に小児プログラムに参加した研修医が、研修期間後も総合病院に定着するなど人材の育成・確保が図られた。また、医師臨床研修マッチング※27においても結果は良好であり、募集定員22人中20人を確保できたことから、初期臨床研修医を安定的に確保しているといえる。																																																																																																				
			初期臨床研修医	H24	H25	H26	H27	H28	H29																																																																																																																						
1年生	18(3)	19(2)	21(2)	20(2)	20(2)	19(2)																																																																																																																									
2年生	14(3)	17(3)	22(2)	22(2)	19(2)	20(2)																																																																																																																									
56	即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	看護師については、年5回の定時募集に加えて随時募集を年7回実施し、切れ目のない採用試験を実施している。また、総合病院においては紹介業者を通じた採用も合わせて行った。(職員数に、アソシエイトを含む。) No. 56 正規職員の確保状況 (単位:人)	<table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>前年度増減(H28-H27)</th> </tr> <tr> <td rowspan="5">法人合計</td> <td>医師</td> <td>241</td> <td>245</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,260</td> <td>1,317</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>324</td> <td>320</td> <td>▲4</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>118</td> <td>119</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,947</td> <td>2,006</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">本部</td> <td>看護師</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>1</td> <td></td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>▲2</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">総合</td> <td>医師</td> <td>135</td> <td>144</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>683</td> <td>748</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>211</td> <td>211</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>49</td> <td>51</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,081</td> <td>1,158</td> <td>77</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こころ</td> <td>医師</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td></td> <td></td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>114</td> <td>114</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>165</td> <td>165</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>医師</td> <td>94</td> <td>89</td> <td>▲5</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>461</td> <td>453</td> <td>▲8</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>86</td> <td>83</td> <td>▲3</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>670</td> <td>654</td> <td>▲16</td> </tr> </table>		区分	27年度	28年度	前年度増減(H28-H27)	法人合計	医師	241	245	4	歯科医師	4	5	1	看護師	1,260	1,317	57	医療技術	324	320	▲4	事務	118	119	1	計	1,947	2,006	59	本部	看護師	2	2	0	医療技術	1		▲1	事務	28	27	▲1	計	31	29	▲2	総合	医師	135	144	9	歯科医師	3	4	1	看護師	683	748	65	医療技術	211	211	0	事務	49	51	2	計	1,081	1,158	77	こころ	医師	12	12	0	歯科医師			0	看護師	114	114	0	医療技術	26	26	0	事務	13	13	0	計	165	165	0	こども	医師	94	89	▲5	歯科医師	1	1	0	看護師	461	453	▲8	医療技術	86	83	▲3	事務	28	28	0	計	670	654	▲16	A 看護師試験については、定時募集に加えて、経験者随時募集を実施し、年間で切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報(WEB、情報誌等)、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がっている。 コメディカル及び事務職員については、必要な職種について適時、募集を実施した。	看護師については定時募集のほか随時募集を実施しており、県民だよりやラジオ、県民サービスセンターへのパンフレット配架、ホームページでの周知といった広報手段を通して情報発信し、採用試験を実施している。また、総合病院のキャラバン隊による養成学校訪問や就学資金の貸与など、多方面から確保に取り組んでいる。コメディカル及び事務職員についても必要に応じて随時募集を行った。
			区分	27年度	28年度	前年度増減(H28-H27)																																																																																																																									
法人合計	医師	241	245	4																																																																																																																											
	歯科医師	4	5	1																																																																																																																											
	看護師	1,260	1,317	57																																																																																																																											
	医療技術	324	320	▲4																																																																																																																											
	事務	118	119	1																																																																																																																											
計	1,947	2,006	59																																																																																																																												
本部	看護師	2	2	0																																																																																																																											
	医療技術	1		▲1																																																																																																																											
	事務	28	27	▲1																																																																																																																											
計	31	29	▲2																																																																																																																												
総合	医師	135	144	9																																																																																																																											
	歯科医師	3	4	1																																																																																																																											
	看護師	683	748	65																																																																																																																											
	医療技術	211	211	0																																																																																																																											
	事務	49	51	2																																																																																																																											
計	1,081	1,158	77																																																																																																																												
こころ	医師	12	12	0																																																																																																																											
	歯科医師			0																																																																																																																											
	看護師	114	114	0																																																																																																																											
	医療技術	26	26	0																																																																																																																											
	事務	13	13	0																																																																																																																											
計	165	165	0																																																																																																																												
こども	医師	94	89	▲5																																																																																																																											
	歯科医師	1	1	0																																																																																																																											
	看護師	461	453	▲8																																																																																																																											
	医療技術	86	83	▲3																																																																																																																											
	事務	28	28	0																																																																																																																											
計	670	654	▲16																																																																																																																												

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																				
					説明																																																						
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	I 2	57	医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	・合同就職説明会に参加し、機構受験者の確保に努めた。 ・新卒看護師向け求人誌への看護師募集記事の掲載を行った。 (H28の状況) NO. 57 看護学生向け就職説明会 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>会場来場</th> <th>ブース来場</th> <th>うち受験者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科(浜松)</td> <td>57</td> <td>31</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ(新潟)</td> <td>290</td> <td>27</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>キャリアタス看護(東京)</td> <td>400</td> <td>40</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マイナビ(浜松)</td> <td>35</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護協会(静岡)</td> <td>35</td> <td>11</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>55</td> <td>35</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>静岡看護専門学校</td> <td>31</td> <td>29</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>東部看護専門学校</td> <td>280</td> <td>61</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>青森県立保健大学</td> <td>124</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>日本医療科学大学</td> <td>174</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>180</td> <td>78</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,661</td> <td>336</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> 企業合同就職説明会(事務)	区 分	会場来場	ブース来場	うち受験者	ナース専科(浜松)	57	31	3	ナースナビ(新潟)	290	27	0	キャリアタス看護(東京)	400	40	0	マイナビ(浜松)	35	18	0	看護協会(静岡)	35	11	0	聖隷クリストファー大学	55	35	3	静岡看護専門学校	31	29	3	東部看護専門学校	280	61	7	青森県立保健大学	124	3	0	日本医療科学大学	174	3	1	常葉大学	180	78	18	計	1,661	336	35	A	(実績に対する評価) 企業主催の説明会については、県外会場等、参加回数を増やし、より多くの看護学生と面接をすることができた。 また、養成校主催の説明会へも昨年に引き続き参加をし、今の学生の動向等をつかむことができた。 (課題) 面接した学生を試験へ結びつけられるよう、説明会後のフォローの充実を図り、より効果的な採用活動を行う。 また、看護師充足状況が比較的良好な地域における就職説明会に参加するなど、今後も、県外にも募集活動を拡げていく。	No56と同様
				区 分	会場来場	ブース来場	うち受験者																																																				
				ナース専科(浜松)	57	31	3																																																				
ナースナビ(新潟)	290	27	0																																																								
キャリアタス看護(東京)	400	40	0																																																								
マイナビ(浜松)	35	18	0																																																								
看護協会(静岡)	35	11	0																																																								
聖隷クリストファー大学	55	35	3																																																								
静岡看護専門学校	31	29	3																																																								
東部看護専門学校	280	61	7																																																								
青森県立保健大学	124	3	0																																																								
日本医療科学大学	174	3	1																																																								
常葉大学	180	78	18																																																								
計	1,661	336	35																																																								
58	看護師修学資金制度の活用推進により、更なる看護師確保を目指す。	NO. 58 看護師修学資金の状況 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>74</td> <td>123</td> <td>88</td> <td>285</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>80</td> <td>99</td> <td>126</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲12</td> <td>▲11</td> <td>▲5</td> <td>▲28</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>142</td> <td>211</td> <td>209</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>33</td> <td>76</td> <td>40</td> <td>149</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	26年度	27年度	28年度	計	決定	74	123	88	285	継続	80	99	126	-	取消	▲12	▲11	▲5	▲28	貸与計	142	211	209	-	採用	33	76	40	149	A	(実績に対する評価) 一定数の募集が集まり、今後安定的な看護師確保が期待される。 (課題) 今年度の実績を踏まえ、効率的・効果的な周知等を行い看護師の確保につなげる。	貸与者も順調に推移しており、28年の貸与者は約200名となっている。 就学金の貸付が機構への就職にもつながっており(貸付者445人に対し、就職者217人)、安定的な看護師の確保に寄与している。 看護師は充足傾向にあるため、今後は施設基準の取得など経営面において効果的な運用が図られることが求められる。																								
区 分	26年度	27年度	28年度	計																																																							
決定	74	123	88	285																																																							
継続	80	99	126	-																																																							
取消	▲12	▲11	▲5	▲28																																																							
貸与計	142	211	209	-																																																							
採用	33	76	40	149																																																							
59	看護師確保担当による養成校の訪問	看護師確保担当を本部事務部に設置し、平成26・27年度において県内外の看護師養成校の訪問を行い、募集活動を行うとともに、情報収集を行った。 また、平成27年度に、看護師人材確保会議において、看護師確保キャラバンを創設し、機構幹部(院長代理、副院長兼看護部長、副看護部長等)が、県外養成校を訪問した。 平成28年度においても、引き続き、看護師確保キャラバンにより、県外養成校を訪問している。 <H28看護師確保キャラバン隊の状況> ・H28. 2. 3～5 沖縄県(8校) ・H28. 2. 17～19 鹿児島県(12校) ・H28. 2. 24～26 岐阜県・三重県(12校) ・H28. 4. 25～27 新潟県(10校) ・H28. 5. 11～13 長野県・山梨県(6校)	A	(実績に対する評価) 看護師確保担当看護部長や看護師確保キャラバン隊が看護師養成校を訪問し、県立3病院等の特色や強み等をPRするとともに、各養成校の学生の就職状況等について情報を収集し、今後の採用活動に活かすことができた。 (課題) 今後は、在職看護師の卒業校がある地域など人材確保が見込まれる地域の選定やPR方法等を検討する。	院長代理を中心に組織されたキャラバン隊による、県外の看護師養成校における募集広報の実施により、県立3病院を積極的にPRすることができるとともに、就職を控える看護学生の生の声を聞くことができています。																																																						

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価																																																														
					説明	事務局による業務実績の確認																																																													
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	I 2		医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	NO. 60、66 実習・アルバイト研修等の受入れ(28年度末時点) (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>医師</th><th>医学生</th><th>看護師</th><th>看護学生</th><th>コメディカル</th><th>計</th></tr> <tr><td>総合</td><td>22</td><td>169</td><td>23</td><td>599</td><td>116</td><td>929</td></tr> <tr><td>こども</td><td>20</td><td>5</td><td>2</td><td>272</td><td>16</td><td>315</td></tr> <tr><td>こども</td><td>37</td><td>27</td><td>88</td><td>458</td><td>42</td><td>652</td></tr> <tr><td>計</td><td>79</td><td>201</td><td>113</td><td>1,329</td><td>174</td><td>1,896</td></tr> </table>	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	22	169	23	599	116	929	こども	20	5	2	272	16	315	こども	37	27	88	458	42	652	計	79	201	113	1,329	174	1,896	A	(実績に対する評価) 研修の受入に関しては、要請に応じた体制づくりや対応に努めている。こども病院のDVDは、次年度に看護学校や就職説明会等での配付を予定しており、病院の魅力のPRにより、看護師確保につなげる。 (課題) 医師、看護師以外の職種についても、受け入れの体制を広げていく必要がある。	実習生等の受入実績は前年度から増加しており、看護実習生の受入では52名増加している。看護実習生の受入れに当たっては看護師確保の一環と捉えて各病院では受入環境を整備している。																									
	区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																																																												
	総合	22	169	23	599	116	929																																																												
	こども	20	5	2	272	16	315																																																												
こども	37	27	88	458	42	652																																																													
計	79	201	113	1,329	174	1,896																																																													
I 2 (1)		医師の卒後臨床研修の充実・強化等 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧コメディカル・事務職員の研修	○医師 ・医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ・医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。	医師や研修医の海外研修への参加により、研修内容の充実を図ることができた(下表は研修医のみの実績)。 NO. 61、73 海外研修の主な実績(28年度末時点) (単位:人) <table border="1"> <tr><th>区分</th><th>内 容</th><th>人数</th></tr> <tr><td rowspan="2">総合</td><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>14</td></tr> <tr><td>海外学会(米国胸部疾患学会他)</td><td>4</td></tr> <tr><td rowspan="4">こども</td><td>太平洋小児外科学会</td><td>4</td></tr> <tr><td>アメリカ胸部外科学会定期学術集会</td><td>2</td></tr> <tr><td>アメリカ心エコー学会議</td><td>3</td></tr> <tr><td>アジア太平洋循環器シンポジウム</td><td>3</td></tr> <tr><td></td><td>アジア心臓血管画像学会</td><td>2</td></tr> </table>	区分	内 容	人数	総合	臨床研修医UCLA研修	14	海外学会(米国胸部疾患学会他)	4	こども	太平洋小児外科学会	4	アメリカ胸部外科学会定期学術集会	2	アメリカ心エコー学会議	3	アジア太平洋循環器シンポジウム	3		アジア心臓血管画像学会	2	A	(実績に対する評価) 医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。	国際学会における演題発表や専門分野にて定められたテーマに関する医療先進国状況調査等に研修医を派遣しており、その成果は院内外での研修講師として共有されるなど医療水準の向上に寄与している。																																								
区分	内 容	人数																																																																	
総合	臨床研修医UCLA研修	14																																																																	
	海外学会(米国胸部疾患学会他)	4																																																																	
こども	太平洋小児外科学会	4																																																																	
	アメリカ胸部外科学会定期学術集会	2																																																																	
	アメリカ心エコー学会議	3																																																																	
	アジア太平洋循環器シンポジウム	3																																																																	
	アジア心臓血管画像学会	2																																																																	
		メディカルスキルアップセンターの活用の促進を図る。		・研修医や新人ナースは必ずメディカルスキルアップセンターを使用している。医師の研修プログラムにシミュレーターを義務とするなどセンターの利用を取り入れ始めている。 ・外部利用について、使用規程、料金規程の案を作成し、運用開始した。	NO. 62 メディカルスキルアップセンター利用状況 (単位:回、人) <table border="1"> <tr><th rowspan="2">区分</th><th rowspan="2"></th><th colspan="2">26年度</th><th colspan="2">27年度</th><th colspan="2">28年度</th></tr> <tr><th>開催回数</th><th>参加人数</th><th>開催回数</th><th>参加人数</th><th>うち外部利用</th><th>うち外部利用</th></tr> <tr><td rowspan="2">医師</td><td>開催回数</td><td>223</td><td>503</td><td>42</td><td>548</td><td>29</td><td></td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>2,467</td><td>3,359</td><td>298</td><td>2,656</td><td>212</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="2">看護師</td><td>開催回数</td><td>184</td><td>190</td><td>30</td><td>199</td><td>28</td><td></td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>2,404</td><td>2,950</td><td>395</td><td>3,290</td><td>252</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="2">その他</td><td>開催回数</td><td>107</td><td>163</td><td>122</td><td>158</td><td>96</td><td></td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>1,183</td><td>2,343</td><td>1,795</td><td>3,008</td><td>1,526</td><td></td></tr> </table>	区分		26年度		27年度		28年度		開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	うち外部利用	うち外部利用	医師	開催回数	223	503	42	548	29		参加人数	2,467	3,359	298	2,656	212		看護師	開催回数	184	190	30	199	28		参加人数	2,404	2,950	395	3,290	252		その他	開催回数	107	163	122	158	96		参加人数	1,183	2,343	1,795	3,008	1,526		A	(実績に対する評価) 基本手技シミュレーター、蘇生訓練用品、臨床各科訓練用品等を実際に使うことで、医療技術の向上に寄与した。医師の研修プログラムへの取り込みも始まっている。 (課題) 外部利用のいっそうの促進のためには、広報等の戦略を練る必要があるが、専任の管理者等がいいため、体制整備が必要。	臨床研修医では、毎月複数回、勉強会として利用されており、スキルの向上に非常に重要な役割を担っている。看護助手の研修や高校生・中学生の一日ナース体験などでも利用されており、若い世代の育成に役立っている。 また、外部利用も可能となっており県内医療従事者のレベルアップのためにもなっている。
区分		26年度		27年度				28年度																																																											
		開催回数	参加人数	開催回数	参加人数	うち外部利用	うち外部利用																																																												
医師	開催回数	223	503	42	548	29																																																													
	参加人数	2,467	3,359	298	2,656	212																																																													
看護師	開催回数	184	190	30	199	28																																																													
	参加人数	2,404	2,950	395	3,290	252																																																													
その他	開催回数	107	163	122	158	96																																																													
	参加人数	1,183	2,343	1,795	3,008	1,526																																																													
		ラーニングセンターの運用手順の確定、活用を図る。	こども	後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確保の実習等で利用している。	A-	(実績に対する評価) 医師や看護師を対象とした研修で活用している。 (課題) 計画的な運用手順を作成する必要がある。	平成27年度ラーニングセンターの整備が完了し、医師や看護師を対象とした研修で活用されている。こども病院の医療従事者を対象としており、現在のところ外部の利用はない。																																																												

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

No.	年度計画	No.	行動計画	業務の実績		28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																												
						説明																														
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	I 2 (1) 医師の卒後臨床研修の充実・強化等 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ③県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用した教育研修の充実、複数病院との共同利用で合同一次・二次救命処置トレーニングの実施 ④県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑤国際交流の推進 ⑥認定看護師等の資格取得への支援 ⑦看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑧コメディカル・事務職員の研修	64	海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。	総合	NO.64 海外視察・講演等の派遣・受入 (単位:件)		A-	(実績に対する評価) 日本と海外の医療交流ができた。リーディングホスピタルとしての医療貢献ができた。 ・英訳した県総案内パンフレットを整備した。 (課題) 交流国の拡大	パンフレットの作成、研修の受け入れなど積極的な交流が維持されている。																											
					<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>						25年度	26年度	27年度	28年度	視察・講演等派遣	4	1	4	2	視察・研修等受入	15	13	10	11												
					25年度	26年度	27年度	28年度																												
				視察・講演等派遣	4	1	4	2																												
視察・研修等受入	15	13	10	11																																
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・シドニー・ウエストメッド小児病院から医師を招聘するとともに、平成28年11月に、当院の医師2名をウエストメッド小児病院に派遣した。 ・平成28年4月に院長が中国の浙江大学医学院附属児童病院を訪問、10月には当院が児童病院から研修医を受け入れ、12月には児童病院の院長が当院を訪問した。 		A	(実績に対する評価) ・ウエストメッド小児病院との交流は、海外における最先端の医療技術を学ぶ良い機会となった。 ・浙江大学医学院附属児童病院と積極的な交流を行った。	国際交流においては相互の交流が図られ、積極的な交流が行われている。																															
	<ul style="list-style-type: none"> ・専門看護師:がん看護1名、急性・重症患者看護1名、慢性期疾患看護専門看護師1名 ・認定看護師:救急看護2名、皮膚、排泄ケア1名、手術看護1名、乳がん看護2名、緩和ケア1名、集中ケア2名、透析看護1名、がん化学療法看護1名、感染管理1名、脳卒中リハビリテーション1名、精神看護1名 ・指導薬剤師1名、日本医療薬学会認定薬剤師3名、認定実務実習指導薬剤師9名、がん薬物療法認定薬剤師3名、感染制御認定薬剤師2名、妊婦・授乳薬剤療法認定薬剤師1名、がん専門薬剤師5名、栄養サポートチーム専門療養士2名、抗菌科学療法認定薬剤師3名、認定CRC2名、禁煙認定専門指導者1名、緩和薬物療法認定薬剤師1名、小児薬物療法認定薬剤師3名、がん指導薬剤師1名、糖尿病療養指導士1名、薬物療法指導薬剤師1名 ・専門理学療法士2名(運動器、内部障害理学療法の両方1名、内部障害理学療法1名)、日本心臓リハビリテーション指導士3名 ・放射線治療専門技放射線技師2名、放射線治療品質管理士1名、PET認定放射線技師8名、救急撮影認定技師5名 					A	(実績に対する評価) 感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織を横断的に活動することができた。 また、資格取得を更に推奨・支援するため、平成26年度より「資格等取得資金貸付制度」を創設し、以降、認定看護師2名、精神認定看護師1名が利用した。 (課題) 今後は各病院で必要とする認定看護師等の区分と職員が希望する区分についてマッチングを行う。	(3病院) 資格取得者への支援制度として、研修受講時の職務専念義務免除と資格取得に要した研修費用を対象とした無利子貸与制度を創設しており、今後、認定看護師の増加が見込まれる。																												
こころ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度より、精神科の中で10領域に分かれていたものが「精神科認定看護師」として1本化されたため、院内での育成計画を見直した。 																																			
いしづも	<ul style="list-style-type: none"> ・専門看護師:小児看護1名 ・認定看護師:皮膚・排泄ケア1名、集中ケア1名、緩和ケア1名、新生児集中ケア2名、がん化学療法1名、感染管理2名、小児救急看護1名、手術室看護1名、精神看護1名 																																			
66	臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	66	臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。	NO.60、66 実習・アルバイト研修等の受入れ (28年度末時点) (単位:人)		A	(実績に対する評価) 研修の受入に関しては、要請に応じた体制づくりや対応に努めている。 (課題) 医師、看護師以外の職種についても、受け入れの体制を広げていく必要がある。	昨年度に比べ、3病院とも受け入れ人数が大幅に増加した。研修を通して病院の魅力をPRし、医師・看護師確保に繋がるよう引き続き取り組まれている。																												
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>22</td> <td>169</td> <td>23</td> <td>599</td> <td>116</td> <td>929</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>272</td> <td>16</td> <td>315</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>37</td> <td>27</td> <td>88</td> <td>458</td> <td>42</td> <td>652</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>79</td> <td>201</td> <td>113</td> <td>1,329</td> <td>174</td> <td>1,896</td> </tr> </tbody> </table>					区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計	総合	22	169	23	599	116	929	こころ	20	5	2	272	16	315	こども	37	27	88	458	42	652
区分	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル	計																														
総合	22	169	23	599	116	929																														
こころ	20	5	2	272	16	315																														
こども	37	27	88	458	42	652																														
計	79	201	113	1,329	174	1,896																														
67	研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	67	研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	総合	平成27年度に卒後臨床研修評価機構(JCEP)を更新した結果、4年間の認定を受けた。		A	平成25年度採用から従来の一般プログラムに加え、小児科プログラムを追加し、平成26年度からはさらに産婦人科プログラムを追加した結果、一般・小児科・産婦人科の3プログラムを有することになった。これにより県内でも不足している小児科医および産婦人科医の確保に努めている。	近年は、一般プログラムに加え、小児科や産婦人科のプログラムを追加し、県内で不足している小児科医及び産婦人科医の確保に努めている。H27～28に総合病院で小児プログラムに参加した研修医が、研修期間後も総合病院に定着するなど人材の育成・確保が図られた。																											

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																																																															
					説明																																																																																																	
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	I 2 (2)	68	就労環境の向上 ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立こども病院院内保育所建替計画の策定	・法人化による雇用の柔軟性・機動性を発揮し、患者に必要な医療を適切に提供するとともに、経営改善及び職員の勤務条件の改善に取り組んだ。 ・看護師の2交代制勤務については、労働組合と合意し、県立総合病院において平成23年8月1日から制度化した。また、平成23年11月から県立こども病院において試行を開始し、平成24年4月より正式に制度化した。平成24年9月から県立こどもの医療センターにおいて試行を開始し、平成25年1月1日から制度化した。 その後、実施病棟を拡大し、平成28年度10月末で、総合病院16病棟、こどもの医療センター3病棟、こども病院9病棟となっている。 ・総合病院の救命救急センター開設(平成25年7月)、こども病院の小児ERの開設(平成25年6月)に合わせて、それぞれに医師の変則勤務の試行を開始し、当直医師の負担軽減を図った。	A	(実績に対する評価) 県立総合病院、県立こども病院、県立こどもの医療センターにおいて2交代勤務を制度化し、実施病棟の拡大を図っている。 総合病院、こども病院において救急体制拡充に伴う、医師の変則勤務の試行を開始し運用しているところ。 また、新たな職員採用制度を設け、優秀な有期職員等を新しい給与体系で正規職員に登用することとした。 (課題) 人材の確保、職員にとって働きやすい労働環境の整備等の観点から、多様な勤務形態の導入を検討していくなかで、看護師の夜勤専従について、平成25年12月から、こども病院において試行を開始し、平成27年9月9日から、総合病院において試行を開始したが、今後運用方法等について検討する必要がある。	看護師の2交代制勤務については平成28年度も実施病棟の拡大を図り、総合病院では392名(16病棟)、こどもの医療センターでは64名(3病棟)、こども病院では301名(9病棟)の看護師が2交代制勤務を利用している。また、総合病院とこども病院の一部の診療科では医師の変則勤務、看護師の夜勤専従を試行している。看護師にとって働きやすい環境の整備の観点から多様な勤務形態の導入を図っている。																																																																																															
								69	医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境を整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	NO. 69 補助職員の配置状況 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">総合</td> <td>医師事務補助</td> <td>55</td> <td>66</td> <td>▲11</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>80</td> <td>80</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>153</td> <td>164</td> <td>▲11</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>医師事務補助</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>医師事務補助</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>医師事務補助</td> <td>45</td> <td>44</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>75</td> <td>86</td> <td>▲11</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>110</td> <td>109</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td colspan="4"></td> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>210</td> <td>220</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td rowspan="3">A</td> <td rowspan="3"> 医療秘書の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増員し、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。 </td> <td rowspan="3"> 医師事務作業補助者や看護助手を必要に応じて増員することで、医療従事者が本来業務である診療や患者対応等に専念することができ、多忙化の解消など負担軽減が図られている。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">70</td> <td rowspan="2">看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行対象者の拡大</td> <td rowspan="2"> ・平成26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。 ・試行対象職員 看護師監督者層(看護部長、副看護部長、看護師長、副看護部長) ・平成27年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。 ・平成28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。 </td> <td rowspan="2">A-</td> <td rowspan="2"> 平成26年度の看護師監督者層の試行後、対象者へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて試行を再開した。 また、コメディカル、事務職員へと順調に対象を拡大して試行している。 平成28年度においては、副主任以上へ制度を拡大して試行したが、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。 なお、県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と協議を開始することとした。 </td> <td rowspan="2"> 職員のモチベーション向上・人材育成のため、人事評価制度を導入し、各病院担当や組合とも交渉しながら、より良い制度を模索している。 </td> </tr> <tr> <td rowspan="2">71</td> <td rowspan="2">就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。</td> <td rowspan="2"> (保育所) ・総合病院院内保育所は、院内保育所運営協議会において、二重保育や入所基準等について、病院及び保育所関係者、利用者で意見交換を行い、保育所運営の向上を図った。 ・こども病院院内保育所は、他病院の保育所の視察や静岡市と開発許可について協議するなど、院内保育所建替の準備や運営方針の見直し等を行っている。 (宿舎) ・総合病院では、医師確保対策を更に推進するため、医師宿舎新規建設の準備を進めた。 ・こども病院では、宿舎F棟を改修した。 </td> <td rowspan="2">A</td> <td rowspan="2"> (実績に対する評価) 医師・看護師を確保するため、就労環境の向上を目指し、医師・看護師宿舎、院内保育所の運用を行った。 引き続き、就労環境の向上に取り組んでいく。 </td> <td rowspan="2"> 総合病院の院内保育所は必要に応じて定員枠の拡大を実施予定である。こども病院の院内保育所の建替は平成29年度設計・建築、平成30年4月開所予定である。 また、こども病院宿舎F棟を改修するなど就労環境の向上が図られている。 </td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	増減	総合	医師事務補助	55	66	▲11	看護助手	80	80	0	コメディカル助手	18	18	0	小計	153	164	▲11	こころ	医師事務補助	2	2	0	看護助手	8	8	0	コメディカル助手	2	2	0	こども	医師事務補助	12	12	0	看護助手	18	18	0	コメディカル助手	22	21	▲1	計	医師事務補助	45	44	▲1	看護助手	75	86	▲11	コメディカル助手	110	109	▲1					<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>210</td> <td>220</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	増減	計	25	25	0	小計	210	220	10	A	医療秘書の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増員し、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。	医師事務作業補助者や看護助手を必要に応じて増員することで、医療従事者が本来業務である診療や患者対応等に専念することができ、多忙化の解消など負担軽減が図られている。	70	看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行対象者の拡大	・平成26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。 ・試行対象職員 看護師監督者層(看護部長、副看護部長、看護師長、副看護部長) ・平成27年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。 ・平成28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。	A-	平成26年度の看護師監督者層の試行後、対象者へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて試行を再開した。 また、コメディカル、事務職員へと順調に対象を拡大して試行している。 平成28年度においては、副主任以上へ制度を拡大して試行したが、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。 なお、県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と協議を開始することとした。	職員のモチベーション向上・人材育成のため、人事評価制度を導入し、各病院担当や組合とも交渉しながら、より良い制度を模索している。	71	就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	(保育所) ・総合病院院内保育所は、院内保育所運営協議会において、二重保育や入所基準等について、病院及び保育所関係者、利用者で意見交換を行い、保育所運営の向上を図った。 ・こども病院院内保育所は、他病院の保育所の視察や静岡市と開発許可について協議するなど、院内保育所建替の準備や運営方針の見直し等を行っている。 (宿舎) ・総合病院では、医師確保対策を更に推進するため、医師宿舎新規建設の準備を進めた。 ・こども病院では、宿舎F棟を改修した。	A	(実績に対する評価) 医師・看護師を確保するため、就労環境の向上を目指し、医師・看護師宿舎、院内保育所の運用を行った。 引き続き、就労環境の向上に取り組んでいく。	総合病院の院内保育所は必要に応じて定員枠の拡大を実施予定である。こども病院の院内保育所の建替は平成29年度設計・建築、平成30年4月開所予定である。 また、こども病院宿舎F棟を改修するなど就労環境の向上が図られている。
											区分	27年度	28年度	増減																																																																																								
総合	医師事務補助	55	66	▲11																																																																																																		
	看護助手	80	80	0																																																																																																		
	コメディカル助手	18	18	0																																																																																																		
	小計	153	164	▲11																																																																																																		
こころ	医師事務補助	2	2	0																																																																																																		
	看護助手	8	8	0																																																																																																		
	コメディカル助手	2	2	0																																																																																																		
こども	医師事務補助	12	12	0																																																																																																		
	看護助手	18	18	0																																																																																																		
	コメディカル助手	22	21	▲1																																																																																																		
計	医師事務補助	45	44	▲1																																																																																																		
	看護助手	75	86	▲11																																																																																																		
	コメディカル助手	110	109	▲1																																																																																																		
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>計</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>210</td> <td>220</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	区分	27年度	28年度	増減	計	25	25	0	小計	210	220	10	A	医療秘書の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて医師事務作業補助者を増員し、医療従事者が診療に専念できるように配置している。診療報酬においては、最上位基準を維持している。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。	医師事務作業補助者や看護助手を必要に応じて増員することで、医療従事者が本来業務である診療や患者対応等に専念することができ、多忙化の解消など負担軽減が図られている。																																																																																			
区分	27年度	28年度	増減																																																																																																			
計	25	25	0																																																																																																			
小計	210	220	10																																																																																																			
70	看護師、コメディカル、事務職員に対する勤務成績評価制度の試行対象者の拡大	・平成26年10月より看護師監督者層を対象とした勤務成績評価制度の試行を開始した。 ・試行対象職員 看護師監督者層(看護部長、副看護部長、看護師長、副看護部長) ・平成27年度は、対象をコメディカル監督者層及び事務職員(県派遣職員)、管理者層に拡大し、試行した。 ・平成28年度は、対象を看護師、コメディカル及び事務職員(プロパー)の副主任以上とし、試行した。	A-	平成26年度の看護師監督者層の試行後、対象者へのアンケートを実施し、その結果を踏まえて試行を再開した。 また、コメディカル、事務職員へと順調に対象を拡大して試行している。 平成28年度においては、副主任以上へ制度を拡大して試行したが、本部と各病院が連携し、円滑に制度を実施できたところであり、職員のモチベーション向上等への寄与が図られたものと考えている。 なお、県に準拠した人事評価制度の導入に向け、職員組合と協議を開始することとした。	職員のモチベーション向上・人材育成のため、人事評価制度を導入し、各病院担当や組合とも交渉しながら、より良い制度を模索している。																																																																																																	
						71	就労環境の改善に向けた院内施設の充実のための検討を進める。	(保育所) ・総合病院院内保育所は、院内保育所運営協議会において、二重保育や入所基準等について、病院及び保育所関係者、利用者で意見交換を行い、保育所運営の向上を図った。 ・こども病院院内保育所は、他病院の保育所の視察や静岡市と開発許可について協議するなど、院内保育所建替の準備や運営方針の見直し等を行っている。 (宿舎) ・総合病院では、医師確保対策を更に推進するため、医師宿舎新規建設の準備を進めた。 ・こども病院では、宿舎F棟を改修した。	A	(実績に対する評価) 医師・看護師を確保するため、就労環境の向上を目指し、医師・看護師宿舎、院内保育所の運用を行った。 引き続き、就労環境の向上に取り組んでいく。	総合病院の院内保育所は必要に応じて定員枠の拡大を実施予定である。こども病院の院内保育所の建替は平成29年度設計・建築、平成30年4月開所予定である。 また、こども病院宿舎F棟を改修するなど就労環境の向上が図られている。																																																																																											

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認					
						説明						
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	1 2 (2)	72	院内保育所建替え・運営方針の策定	こども 運営方針を決定し、平成28年度に市と敷地(市街化調整区域)に関する協議を進め、平成29年度に設計、建築を予定している。	A	(実績に対する評価) 運営方針を決定し、計画を着実に進めている。 (課題) 今後の設計・建築にあたり、病院及び保育所の敷地が市街化調整区域のため、市と協議し開発許可を得る必要がある。	建替えの際の検討材料とするため、他病院の保育所の視察を実施したほか、建替えにおいて必要となる静岡市との開発許可に係る協議を実施した。 平成29年度当初から設計に着手し、平成30年4月の開所を目指して事業実施されている。					
	1 2 (3)					73		総合 研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	こころ NO. 73 H28追加	A-	(実績に対する評価) 医師を対象とした「研究事業費」を充実し、研究や海外研修に必要な予算・制度を整えている。 (課題) 医師不足、多忙化のため、制度の活用がまだ十分になされていない。 研修内容を充実させるためには、専任の教育担当が必要である。	総合・こどもにおいては活発な海外研修がおこなわれている。こころは海外研修は該当しないが、国内での学会や研修に参加した。
	こども										A	

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認			
					説明					
第1 2 医療に関する技術者(医師、看護師等医療従事者)の研修を通じた育成と質の向上	I 2 (3) 知識や技術の普及 ①学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ②認定看護師等の資格保有者の活用 ③県内の医療従事者への教育研修機能の開放	74	院内における資格取得者の活用を促進する。	看護師、コメディカル、事務が業務を実施するうえで、有用な資格等の取得を支援し、職員のレベルアップを図る。 NO.74 資格等取得助成制度利用者 (単位:人)	A	資格等取得助成制度は、平成24年度から開始し、毎年度一定数の利用者があり、取得者は増加している。 また、資格取得者は、認知症ケアチーム等のチーム医療に加わり、医療の質の向上と病院収入の確保に貢献している。	業務に有用な資格取得を支援するため病院独自の助成制度を設けており、看護師やコメディカルが制度を利用している。 職員のモチベーション向上のためにも、取得した資格を業務において発揮される職員配置が望まれる。			
				総合				26年度	27年度	28年度
				看護師				10	17	27
コメディカル	13	6	10							
事務	1									
計	24	23	37							
こころ	看護師	1								
コメディカル										
事務		1								
計	1	1	0							
こども	看護師	26	16	35						
コメディカル	3									
事務										
計	29	16	35							
本部	事務									
計	看護師	37	33	62						
コメディカル	16	6	10							
事務	1	1	0							
計	54	40	72							
		75	地域の医療機関等の看護師、保健師への実習研修を継続実施する。	NO.75 実習研修受入れ実績 (単位:人)	A	(実績に対する評価) 看護部が中心となり、院内関係部署の調整・研修プログラムを準備し、増加する実習希望に対応した。	院内外の医療関係者を対象とした定期的な講演会や地域の医療機関等の看護師、保健師への継続的な実習研修を行い、知識や技術の普及に努めている。			
		76	講演会やセミナーなどを開催する。	NO.76 公開講演会開催実績 (単位:回)	A-	(実績に対する評価) 講演会、症例検討会を定期的で開催した。職員のみならず院外の医療従事者に対して知識や技術の普及を行っている。 (課題) 外部への戦略的な広報。	院内外の医療関係者を対象とした定期的な講演会や、地域の医療機関等の看護師、保健師への継続的な実習研修を行い、知識や技術の普及に努めている。 公開講座の開催回数は、総合・こどもともに前年度実績を下回っている。			
総合	区分			26年度				27年度	28年度目標	28年度
		開催件数	18	17	12	15				
		こども		NO.76 公開講演会開催実績 (単位:回)	A-	(実績に対する評価) オープンセミナー、講演会等を定期的に開催するとともに、別室での映像配信やDVDの配付等を行い、会場の収容人数を超える参加希望者に対応した。				
		区分	26年度	27年度				H28目標	28年度	
		開催件数	22	23	12	12				

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																																																										
					説明																																																																																												
第1 3 医療に関する調査及び研究	I 3 (1) 研究機能の強化 ①臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ②治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ③県立大学等の研究機関との共同研究	77	<ul style="list-style-type: none"> 研究室スペースを確保し、研究員を迎える。 研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 県立大学との共同研究を行う。 	総合 <ul style="list-style-type: none"> 総合病院循環器病センター6階に県立大学薬学部の臨床薬学教室、臨床薬効解析学教室の2つの教室、薬剤部内に医薬品情報解析学教室分室が設置され、総合病院薬剤部との共同研究を行う体制を取っている。 北館6階に、臨床医学研究センターを設置。 平成27年度から客員研究員の受入れを開始し、研究のサポートを実施。 27年度客員研究員の新規受入れ数 4名 28年度客員研究員の新規受入れ数 3名 合計 7名 奨学寄附金の利用状況 	A	研究の一部は国内外へ論文発表が行われる等、共同研究の成果が確認できる。院外から客員研究員を迎える体制を整備し、研究機能の強化を行っている。	奨学寄附金の受入がここ数年減少傾向にあるが、総合病院における先端医学棟のリサーチ・サポート客員研究員の受入れも、27年度は4人、28年度は3人と、施設の整備と並行して研究支援の体制づくりも充実されている。																																																																																										
								78	<ul style="list-style-type: none"> 医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。 臨床試験管理センターによる臨床研究の支援を行う。 	NO. 78 医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件) <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">26年度</th> <th colspan="4">27年度</th> <th colspan="4">H28予算</th> <th colspan="4">28年度</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> <th>件数</th> <th>契約額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>29</td> <td>86,805</td> <td>29</td> <td>85,762</td> <td>31</td> <td>72,431</td> <td>30</td> <td>78,259</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>185</td> <td>5</td> <td>1,139</td> <td>1</td> <td>315</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>24</td> <td>7,610</td> <td>29</td> <td>10,858</td> <td>27</td> <td>11,887</td> <td>26</td> <td>19,656</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度				27年度				H28予算				28年度				件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	総合	29	86,805	29	85,762	31	72,431	30	78,259									こころ	1	185	5	1,139	1	315	0	0									こども	24	7,610	29	10,858	27	11,887	26	19,656									A	(実績に対する評価) ・製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 ・治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。 ・市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。	医薬品受託研究件数及び契約額の3病院計は、ともに26年度から増加しており、積極的な取組が行われている。
												区分	26年度				27年度				H28予算				28年度																																																																								
件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額	件数	契約額		件数	契約額	件数	契約額																																																																																	
総合	29	86,805	29	85,762	31	72,431	30	78,259																																																																																									
こころ	1	185	5	1,139	1	315	0	0																																																																																									
こども	24	7,610	29	10,858	27	11,887	26	19,656																																																																																									
79	DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	総合 <ul style="list-style-type: none"> DPC分析ソフトを用いて、特定の症例について分析を行い、分析結果をもとに薬剤の積極的な切替を行った結果、後発品使用率が84.6% (H27年度) から91.8%に上昇した。 アナライザー、ダッシュボードを用いて、後発医薬品の使用率の算出を実現した。 	A-	(実績に対する評価) ダッシュボードを用いて、市中肺炎分析を行い、抗生剤の使用量や金額について情報提供を行った。後発品使用率90%以上を達成した。 (課題) 今後は、プロパー職員のスキルアップを図り、より精緻で実用的な分析を行う。 ※市中肺炎：普段の社会生活を送っている中で罹患した肺炎。入院して48時間以後に発症したものは「院内肺炎」として区別される。	DPCデータ等の分析を行うことにより、抗生剤の使用量等の提案や後発医薬品への切り替えなど、医療の質の向上とともに経営改善にもつなげている。その結果、後発医薬品使用率を大幅に上昇させるなどの効果が現れている。診療科別・患者別・疾患別原価計算のシステムについて総合病院では新たな原価計算分析ソフトを導入しデータ蓄積が進められており、こども病院でも一部システムの利用が進められているが経営改善に役立てるための活用段階への移行が求められる。																																																																																												
						80	DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックするため、診療情報の管理体制を整備する。	こども NO. 80 DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	開催回数	2	2	4	出席者数	19	23	54	A	(実績に対する評価) 部会兼委員会の委員を各部門の職員から構成し、必要な情報を各診療へフィードバックすることにより、診療情報の管理体制を整えた。 (課題) 今後も診療情報を活用していくため、引き続き職員のスキルアップが必要である。	DPCデータ分析等を行う検討委員会を4回開催し、診療情報を現場にフィードバックしている。また、全国の小児専門病院間で情報を共有するなど診療に活かしている。さらに、レセプトデータのチェックを行うことで診療報酬請求の精度向上に努めている。																																																																										
区分	26年度	27年度	28年度																																																																																														
開催回数	2	2	4																																																																																														
出席者数	19	23	54																																																																																														

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																																							
					説明																																																																									
第1 3 医療に関する調査及び研究	I 3 (2)	診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析 ②収支実績を部門別に随時把握できるシステムの利用	公的病院としての説明責任・透明性の確保に努める。(不採算疾患例の明示、原価計算) 原価計算システムを導入し、検討を進める。	総合 平成28年1月に原価計算システムを購入し、原価計算システムの構築を開始した。システム事業者との全6回の打合せのうち、4回を終了している。	A-	(実績に対する評価) 原価計算システムを購入し、データ入力を随時実施している。 (課題) システム運用に関しては、まずは継続的にデータを蓄積し、その推移から経営状況の把握を目指すこととし、システム構築、活用については今後さらに院内で議論していく。	総合、こども両病院ともに原価計算システムを導入し、診療科別の損益計算に向けたデータ蓄積や活用方法の検討等が進められている。 総合病院では蓄積したデータをもとに複数段階のシミュレーションを通じて活用段階に向けた検討が進められており、29年度中の運用が見込まれている。 こども病院でも職員の研修や他病院との比較による活用方法の検討など、具体的な活用に向けた検討が進められている。 原価計算システムの活用においては、過年度からの重要な課題として挙げられており、経営改善に役立てるための活用段階への早期移行が求められる。																																																																							
				こども 平成27年度に原価計算システムを導入、配賦基準等を定め、今年度から本格的な運用を開始した。DPCや財務会計のデータを用いて原価計算を行っている。	B	(実績に対する評価) ・原価計算システムの導入により、診療科別の損益を計算することが可能となった。 ・平成28年度診療報酬改定による収益シミュレーションにおいて、原価計算システムを活用した。 (課題) 計算結果を経営改善に役立てる活用方法の整備、原価計算に精通した職員の養成。																																																																								
第1 3 医療に関する調査及び研究	I 3 (3)	県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供	県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。 NO. 82	A	(実績に対する評価) 公開講座の開催を通じて、県民・県内医療機関に対して、最新医療に関する情報提供を行うことができたと同時に、機構の取組みについてもPRすることができた。	各病院の医療情報やトピックスを県民に向けて情報提供するため、各病院ホームページの適時更新、公開講座、県民イベント等の充実、また、報道機関へ積極的に情報を提供するなど、27年度に引き続き医療機関・県民それぞれに対し、積極的な取組が進められている。																																																																							
				<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">公開講座の開催 (28年度末時点) (単位:人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>内 容</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">県民向け</td> <td>総合</td> <td>県民の日講演会</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td></td> <td>富士山の日講演会</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メディカルカフェ (全3回)</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td></td> <td>小児アレルギー教室</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td rowspan="15">医療機関向け</td> <td rowspan="15">総合</td> <td>薬物療法研修会 (全8回)</td> <td>446</td> </tr> <tr> <td>がん放射線治療・化学療法研修会</td> <td>332</td> </tr> <tr> <td>NST勉強会 (全8回)</td> <td>473</td> </tr> <tr> <td>遺伝診療科講演会</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>慢性期医療を考える会 (8月、2月)</td> <td>273</td> </tr> <tr> <td>災害感染症対策セミナー 1n SHIZUOKA2016</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>がん医療公開講座 (1月、2月)</td> <td>266</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア講演会</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア研修会 (10月、3月)</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>肺がんカンファレンス</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>がん早期診断研修会</td> <td>31</td> </tr> <tr> <td>がん放射線治療・化学療法研修会</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>NST勉強会 (7月、9月、11月)</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">こども</td> <td></td> <td>よりよく食べるために</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td></td> <td>最近話題の脳炎・脳症</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td></td> <td>染色体分析では見落す染色体異常、低頻度モザイク</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td></td> <td>分娩時CTGの読み方</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td></td> <td>合併症妊娠 (婦人科疾患)</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td></td> <td>産科出血の管理</td> <td>115</td> </tr> <tr> <td></td> <td>補助人工心臓と心筋細胞移植</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td></td> <td>思春期の摂食障害の理解と支援</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>性腺機能低下症</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table>				公開講座の開催 (28年度末時点) (単位:人)			区分	内 容	参加者	県民向け	総合	県民の日講演会	115		富士山の日講演会	114		メディカルカフェ (全3回)	53	こども		小児アレルギー教室	47	医療機関向け	総合	薬物療法研修会 (全8回)	446	がん放射線治療・化学療法研修会	332	NST勉強会 (全8回)	473	遺伝診療科講演会	40	慢性期医療を考える会 (8月、2月)	273	災害感染症対策セミナー 1n SHIZUOKA2016	69	がん医療公開講座 (1月、2月)	266	緩和ケア講演会	90	緩和ケア研修会 (10月、3月)	42	肺がんカンファレンス	19	がん早期診断研修会	31	がん放射線治療・化学療法研修会	40	こころ	NST勉強会 (7月、9月、11月)	81	こども		よりよく食べるために	45		最近話題の脳炎・脳症	45		染色体分析では見落す染色体異常、低頻度モザイク	20		分娩時CTGの読み方	147		合併症妊娠 (婦人科疾患)	65		産科出血の管理	115		補助人工心臓と心筋細胞移植	49
公開講座の開催 (28年度末時点) (単位:人)																																																																														
区分	内 容	参加者																																																																												
県民向け	総合	県民の日講演会	115																																																																											
		富士山の日講演会	114																																																																											
		メディカルカフェ (全3回)	53																																																																											
こども		小児アレルギー教室	47																																																																											
医療機関向け	総合	薬物療法研修会 (全8回)	446																																																																											
		がん放射線治療・化学療法研修会	332																																																																											
		NST勉強会 (全8回)	473																																																																											
		遺伝診療科講演会	40																																																																											
		慢性期医療を考える会 (8月、2月)	273																																																																											
		災害感染症対策セミナー 1n SHIZUOKA2016	69																																																																											
		がん医療公開講座 (1月、2月)	266																																																																											
		緩和ケア講演会	90																																																																											
		緩和ケア研修会 (10月、3月)	42																																																																											
		肺がんカンファレンス	19																																																																											
		がん早期診断研修会	31																																																																											
		がん放射線治療・化学療法研修会	40																																																																											
		こころ	NST勉強会 (7月、9月、11月)	81																																																																										
		こども		よりよく食べるために	45																																																																									
				最近話題の脳炎・脳症	45																																																																									
	染色体分析では見落す染色体異常、低頻度モザイク		20																																																																											
	分娩時CTGの読み方		147																																																																											
	合併症妊娠 (婦人科疾患)		65																																																																											
	産科出血の管理		115																																																																											
	補助人工心臓と心筋細胞移植	49																																																																												
	思春期の摂食障害の理解と支援	21																																																																												
		性腺機能低下症	14																																																																											

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認	
						説明		
第1 3 医療に関する調査及び研究	I 3 (3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供	83	県民向けイベントへの開催や参加に努める。	総合 ・静岡県立総合病院の機能、設備、職員の姿を知ってもらうことによって、県民に開かれた病院であることを示しながら、本院の存在意義をより理解してもらうことを目的として、県民向け病院開放イベント「オープンホスピタル」を開催した。 平成28年7月30日 来場者約1,200名 ・県民の日に合わせ、「県民の日講演会」を8/21に開催した。 ・富士山の日に合わせ「富士山の日講演会」を2/19に開催した。	A	オープンホスピタルを開催し、好評を得た。	オープンホスピタル等においては、専門的知識を有する医療従事者が、模擬手術体験や健康相談、骨密度測定等を行って県民と触れ合う等して、病院の機能や医療に関する知識について県民向けイベントの開催等を通して継続的に周知されている。	
				こども も (株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」に参加し、健康相談及びこどもの医師・ナース服の着用体験のブースを出展した。 2日間合計で、健康相談10組、着用体験1,288人の来場があった。	A	(実績に対する評価) 多くの来場者に当院をPRすることができた。		
		84	県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	・各病院の医療情報やトピックスを県民等に向けてできるだけ早く情報提供するため、各病院ホームページを適時更新するとともに、入札情報や機構への就職希望者向けの情報などを適時更新するなど、ホームページの活用を図った。 ・平成26年度にホームページのリニューアルを行い、平成28年度も引き続き情報を見つけやすくするようにページ作りを工夫した。 NO. 84	セクション別アクセス件数 (単位: 件)	A	(実績に対する評価) 病院トップページの写真の変更やトピックスの更新など、積極的にホームページの更新を行った。機構全体で、情報提供は着実に推進している。	積極的かつタイムリーなホームページ更新に努めた結果、安定したアクセス状況を維持している。セクション別アクセス件数によると、診療日、交通アクセス、外来案内などのアクセスが上位であることから、受診希望者の玄関口としての機能を発揮している。また、各種イベントや採用情報などの最新情報も随時更新されており、外部への情報提供がなされている。
	県民への情報提供の充実 ③報道機関等への情報発信	85	県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、県政記者クラブへ積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。 NO. 85	記者情報提供件数 (単位: 件)	A	(実績に対する評価) 県政記者クラブへの提供48件のうち、メディアに掲載された話題は31件(約65%)だった。 テレビ・新聞等において、報道、掲載が多数あり、情報提供は着実に推進している。	報道提供件数・掲載件数ともに増加しており、最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的な情報発信が行われている。 医療専門用語等は県民にとって馴染みが薄いことが多いので、報道機関への情報提供時においても、平易な表現やポイントを絞ってわかりやすい資料を提供するなどの工夫が求められる。

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																	
						説明																		
第1 4 医療に関する地域への支援	I 4 (1) 本県の医師確保対策への取組 ①県の医師派遣事業への協力 ②県の医師派遣事業に必要な医師必要数の見直し ③「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部である医師就労等相談窓口業務などを受託・運営 ④新専門医認定制度への対応	86	地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。	総合	NO.86 医師派遣実績 (単位:機関、科、人)	A-	医師派遣の要望は依然として各病院から寄せられており、当院としても適切に対応していく。	医師不足が生じている医療機関等に対する医師派遣に適切に対応している。県補助によらない派遣にも地域医療支援病院として対応しており、地域医療の確保に貢献している。派遣先・派遣人数ともに前年度より減少しているが、県総では新たに佐久間病院への派遣に応じている。																
					<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>12</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>701</td> <td>775</td> <td>570</td> </tr> </tbody> </table>	区分			26年度	27年度	28年度	医療機関	11	10	9	診療科	12	9	6	延人員数	701	775	570	
				区分	26年度	27年度			28年度															
				医療機関	11	10			9															
				診療科	12	9			6															
延人員数	701	775	570																					
子ども	NO.86 医師派遣実績(公的病院) (単位:機関、科、人)	A	(実績に対する評価) ・静岡市立静岡病院、静岡済生会総合病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市民病院、富士宮市立病院に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。 ・公的病院だけでなく、県の要請に基づき、障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>4</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>662</td> <td>958</td> <td>878</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	医療機関	4	7	6	診療科	1	2	2	延人員数	662	958	878							
区分	26年度	27年度	28年度																					
医療機関	4	7	6																					
診療科	1	2	2																					
延人員数	662	958	878																					
	・障害児施設のつばさ静岡に延200人の医師を派遣した。静岡市急病センター等へ医師を派遣した。																							
	87	小児1次救急医療への応援を行う。	子ども	NO.87 医師派遣実績(急病センター) (単位:機関、科、人)	A	(実績に対する評価) 静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。	志太榛原地域救急医療センターに対しては小児科、内科系の夜間救急に、静岡市急病センターに対しては小児科、外科の夜間救急に医師を派遣しており、地域医療支援病院として、地域の小児一次救急医療支援に貢献している。																	
	88	・各科医師必要数を見直しする。 ・静岡県の地域医療を支援していくために必要な医師数の検討を進める。	総合	他院や各医局と連携し、地域医療に必要となる医師の確保に努めている。	A	医療機能を発揮するために必要な医師を確保する必要がある。	正規医師数は、総合で157人(前年比+13人)、こころで12人(前年比±0)、こどもで91人(前年比+2人)と、県立病院の医療機能を最大限に発揮し、中期目標を達成するために必要な人員の確保に努めている。																	
	89	・ふじのくに地域医療支援センター機能の一部である業務を受託、運営する。		『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」や「女性医師支援」などの業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。	A	(実績に対する評価) 業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。	22年度に地域医療支援センターを設置し、県内の医師確保に向け支援策を講じている。																	

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																		
						説明																			
第1 4 医療に関する地域への支援	I 4 (1)	90	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻医を受け入れる体制の整備 ・専攻医の募集 	総合 平成29年度より開始する新専門医制度に向けて、全診療科の状況把握を行った。イベントに参加するなど、積極的に募集を行っている。来年度の専攻医は今年度と同等程度を見込んでいる。	A	プログラムの作成を6領域において行い、全領域において1次審査の合格を受けた。年度末には、プログラムの再申請を行った。今後は新専門医制度の動向を調査し、受け入れの体制整備、募集に努める。	<p>新たな専門医制度に向けて、総合病院では全診療科において状況把握を実施した後、内科、外科など6領域においてプログラムを作成し1次審査を合格している。こども病院では、新制度に準じて実施される小児科専門医制度の基幹施設として、定員どおり8人の採用を内定するとともに、研修医の宿泊施設の改修を進めるなど受入体制を整備している。</p>																		
	個別 ・平成29年度から新制度に準じて実施される小児科専門医制度の基幹施設として、研修医の募集及び採用試験を行い、定員どおり8名の採用を内定した。 ・研修医宿泊施設を整備した。			A	<p>(実績に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修医の採用内定を行うなど、平成29年度に開始する小児科新専門医制度に向けて、着実に対応している。 ・宿泊施設の改修工事を行い、研修医を受け入れる体制を整備した。 																				
	I 4 (2)	91	PET共同利用率については、地域診療機関への啓蒙活動を継続し、共同利用率の向上を図る。	総合 NO.91 PETイメージングセンター共同利用 (単位:件、%)	A	施設基準における20%と比べて、高い共同利用率となっており、地域の医療機関に利用されている。健診の件数は27年度と比べ13件増加している。	PET、MRI等の高額医療機器の地域医療機関との共同利用が進められ、PETの共同利用率には施設基準を上回る高水準で推移している。 また、4健診機関と連携した健診での利用についても前年度から増えており、地域の医療機関との連携・支援が着実に進められている。																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>4,121</td> <td>4,211</td> <td>4,276</td> <td>4,235</td> </tr> <tr> <td>共同利用件数</td> <td>1,635</td> <td>1,673</td> <td>1,623</td> <td>1,429</td> </tr> <tr> <td>共同利用率</td> <td>39.7</td> <td>39.7</td> <td>39.5</td> <td>33.7</td> </tr> <tr> <td>健診件数</td> <td>108</td> <td>165</td> <td>155</td> <td>168</td> </tr> </tbody> </table>			区分				25年度	26年度	27年度	28年度	件数	4,121	4,211	4,276	4,235	共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429	共同利用率	39.7	39.7	39.5
区分	25年度	26年度	27年度	28年度																					
件数	4,121	4,211	4,276	4,235																					
共同利用件数	1,635	1,673	1,623	1,429																					
共同利用率	39.7	39.7	39.5	33.7																					
健診件数	108	165	155	168																					
	92	地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	総合 NO.92 CT、MRI共同利用 (単位:件)	A	<p>継続して共同利用の実施がなされている。CTは815件→919件(前年度比+104件)、MRIは645件→621件(前年度比▲24件)となった。今後は読影医の確保、利用件数の更なる向上を図る。</p>	No.91と同様																			
	93	<ul style="list-style-type: none"> ・ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにねっとIDCの機器更新を行う。 ・県立総合病院の連携サーバーの機器更新を行う。 ・事業継続のため、会費徴収の手続きを進める。 	総合 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である磐田市立総合病院・川根本町いやしの里診療所・菊川市立総合病院・公立森町病院・静岡済生会総合病院・社会保険桜ヶ丘総合病院(H26.4～地域医療機能推進機構桜ヶ丘病院に名称変更)・市立御前崎総合病院・市立島田市民病院・中東遠総合医療センター・榛原総合病院・藤枝市立総合病院・富士市立中央病院・焼津市立総合病院や、各地域の自治体・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、IDC及び県立総合病院連携サーバーの更新を行った。また、静岡県立こども病院、静岡県立こころの医療センター、医療法人社団アール・アンド・オーにてシステム整備を行った。年度末の理事会において利用料規定を決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。	A	<p>ネットワークへの参加施設は順調に拡大を続けている。 システム機器の更新時期を迎えることを契機に、費用負担のあり方等を含めた事業の利用規程を理事会で決定し、ネットワークシステムの運営経費の適正な負担を図った。 補助金を活用し、システム機器の更新と新規開示施設でのシステム整備を行った。</p>	<p>県総、中東遠地域の病院間を中心に有効に活用されており、病病連携・病診連携が図られている。 県補助金の活用により、データセンター更新及び新規開示施設整備が図られた。 参加施設からの利用料徴収の開始はシステム全体の運営経費の適正化に寄与している。 利用料徴収に伴い、診療所を中心に参照施設が減少しており、有効活用の促進に向け、新規参加施設の獲得及び、開示情報の増加に向けた取組が必要。</p>																			
	94	国内外の医療機関との映像情報を通じた研修や診断を実施する。	こども NO.94 心エコー画像遠隔診断実績 (単位:件)	A	<p>(実績に対する評価) 国内外の医療機関と連携し、映像情報を通じたカンファレンスや診断を継続的に実施した。 (課題) 連携には、相手先医療機関の設備投資が必要であり、ネットワーク拡大の障害となっている。実績を基に、画像診断の有効性を説明し理解を得る必要がある。</p>	<p>最先端映像システムを活用した遠隔診療について、心エコー画像遠隔診断は、新生児疾患の病状急変へのリアルタイム診断に寄与しているほか、浜松医大等との合同カンファレンスの実施により、地域の小児医療支援に貢献している。 心エコー画像遠隔診断症例数では前年度実績を下回っている。</p>																			

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																																																																													
					説明																																																																																															
第1 4 医療に関する地域への支援	I 4 (3)	95	社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応	院内外の研修会等を定期的で開催することに加え、協議会等の医師会との合同開催を通じ、かかりつけ医へ最新の医療情報を提供する。	総合	A-	No.95 拡大がんセンター実績（開催予定含む） H27追加 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">回数</th> <th rowspan="2">開催日</th> <th colspan="3">参加人数</th> </tr> <tr> <th>院内</th> <th>院外</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td>平成28年5月13日</td> <td>21</td> <td>21</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>平成28年7月1日</td> <td>35</td> <td>22</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>平成28年9月2日</td> <td>24</td> <td>37</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>平成28年11月25日</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>平成29年1月13日</td> <td>18</td> <td>38</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>平成29年3月7日</td> <td>32</td> <td>30</td> <td>62</td> </tr> </tbody> </table> No.95 地域医療機関等との会議等（開催予定含む） 会議名の「平成28年度」は表記省略 H27追加 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">会議名</th> <th rowspan="2">開催日</th> <th colspan="3">参加人数</th> </tr> <tr> <th>院内</th> <th>院外</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会</td> <td>H28.6.27</td> <td>8</td> <td>22</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>第1回地域医療支援病院運営委員会</td> <td>H28.8.29</td> <td>21</td> <td>11</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>第11回慢性期医療を考える会</td> <td>H28.8.30</td> <td>41</td> <td>143</td> <td>184</td> </tr> <tr> <td>第2回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会</td> <td>H28.9.26</td> <td>8</td> <td>22</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>病診連携協議会</td> <td>H28.9.29</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>病診連携総会</td> <td>H29.11.4</td> <td>127</td> <td>63</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>第2回地域医療支援病院運営委員会</td> <td>H29.2.14</td> <td>24</td> <td>10</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>第12回慢性期医療を考える会</td> <td>H29.2.15</td> <td>28</td> <td>61</td> <td>89</td> </tr> <tr> <td>第2回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会</td> <td>H29.2.27</td> <td>8</td> <td>35</td> <td>43</td> </tr> </tbody> </table>	回数	開催日	参加人数			院内	院外	合計	第1回	平成28年5月13日	21	21	42	第2回	平成28年7月1日	35	22	57	第3回	平成28年9月2日	24	37	61	第4回	平成28年11月25日	30	24	54	第5回	平成29年1月13日	18	38	56	第6回	平成29年3月7日	32	30	62	会議名	開催日	参加人数			院内	院外	合計	第1回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会	H28.6.27	8	22	30	第1回地域医療支援病院運営委員会	H28.8.29	21	11	32	第11回慢性期医療を考える会	H28.8.30	41	143	184	第2回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会	H28.9.26	8	22	30	病診連携協議会	H28.9.29	8	11	19	病診連携総会	H29.11.4	127	63	190	第2回地域医療支援病院運営委員会	H29.2.14	24	10	34	第12回慢性期医療を考える会	H29.2.15	28	61	89	第2回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会	H29.2.27	8	35	43	地域医療従事者も参加できるカンファレンス等を定期的に開催した。地域医療機関との情報共有の場としての会議等を開催し、積極的な意見交換を行った。	多職種医療チームが参加し、がんの症例検討を行う拡大がんセンターボードを実施するなどして、地域の医療・介護従事者も参加し有意義な意見交換を行うことで総合病院のがん診療について周知されている。
										回数	開催日	参加人数																																																																																								
								院内	院外			合計																																																																																								
								第1回	平成28年5月13日	21	21	42																																																																																								
								第2回	平成28年7月1日	35	22	57																																																																																								
第3回	平成28年9月2日	24	37	61																																																																																																
第4回	平成28年11月25日	30	24	54																																																																																																
第5回	平成29年1月13日	18	38	56																																																																																																
第6回	平成29年3月7日	32	30	62																																																																																																
会議名	開催日	参加人数																																																																																																		
		院内	院外	合計																																																																																																
第1回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会	H28.6.27	8	22	30																																																																																																
第1回地域医療支援病院運営委員会	H28.8.29	21	11	32																																																																																																
第11回慢性期医療を考える会	H28.8.30	41	143	184																																																																																																
第2回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会	H28.9.26	8	22	30																																																																																																
病診連携協議会	H28.9.29	8	11	19																																																																																																
病診連携総会	H29.11.4	127	63	190																																																																																																
第2回地域医療支援病院運営委員会	H29.2.14	24	10	34																																																																																																
第12回慢性期医療を考える会	H29.2.15	28	61	89																																																																																																
第2回ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会理事会	H29.2.27	8	35	43																																																																																																
96	他団体の講師派遣依頼に協力する。	総合	A-	No. 96 講師派遣実績 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>73</td> <td>58</td> <td>62</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>72</td> <td>36</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	医師	73	58	62	その他	72	36	4	(実績に対する評価) 他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。	外部他団体が主催する研修会や講演会に医師や認定看護師等の職員を派遣するなど積極的な支援を行うとともに、これらを通じて学校や地域との連携を深めている。前年比、医師の講師派遣件数は増加しているが、その他については依頼件数が減少したことに伴い、減となった。																																																																																		
					区分	26年度	27年度	28年度																																																																																												
					医師	73	58	62																																																																																												
					その他	72	36	4																																																																																												
97	他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	こころ	A-	No. 97 院外講演会講師派遣状況(医師) (単位：回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>25</td> <td>30</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> 院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位：回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>30</td> <td>22</td> <td>32</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	派遣回数	25	30	18	区分	26年度	27年度	28年度	派遣回数	30	22	32	(実績に対する評価) 他団体等が主催する講演会の講師として医師や認定看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行った。	日本精神科看護技術協会研修の講師、厚労省科学研究への協力、県立大学・県立短大看護学部での講師、静岡市立清水看護学校での講師、出前講座の講師、ケアマネージャー研修の講師、司法関連公開講座の講師などを務めている。																																																																														
					区分	26年度	27年度	28年度																																																																																												
派遣回数	25	30	18																																																																																																	
区分	26年度	27年度	28年度																																																																																																	
派遣回数	30	22	32																																																																																																	
98	医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	こころ	A	No. 98 医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	26年度	27年度	28年度	こころ	10	7	9	(実績に対する評価) 県内精神医療の中核病院として、各方面からの要請に的確に対応できた。	医療観察法の鑑定医として、県内各方面からの鑑定等の要請に対応するなど社会的要請に応えている。																																																																																						
					区分	26年度	27年度	28年度																																																																																												
こころ	10	7	9																																																																																																	
99	特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、検討会や説明会などを継続的に開催する。	こども	A	No. 52、99 H28精神保健講座等開催実績 (H28年度末時点) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神保健講座</td> <td>県内小中学校教諭</td> <td>5回 135人</td> </tr> <tr> <td>児童養護施設巡回相談</td> <td>こども・家族</td> <td>10回 10施設</td> </tr> </tbody> </table>	区分	対象	参加者数等	精神保健講座	県内小中学校教諭	5回 135人	児童養護施設巡回相談	こども・家族	10回 10施設	(実績に対する評価) 教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的にを行い、学校・地域との連携強化を図った。	児童精神科分野における中核的病院として、子どもの心の問題などに対応するため、地域医療機関、児童相談所、保健所や教育機関等と連携した支援体制の構築に向け、精神保健講座や児童擁護施設巡回相談を実施するなど社会的要請に応えている。28年度の巡回相談実施回数は常勤医師の減により施設数を1減らし、過去2年と比較して少なくなっている (H27:22回11施設、H26:20回10施設)																																																																																					
					区分	対象	参加者数等																																																																																													
精神保健講座	県内小中学校教諭	5回 135人																																																																																																		
児童養護施設巡回相談	こども・家族	10回 10施設																																																																																																		

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価		事務局による業務実績の確認																																														
						説明																																															
第1 4 医療に関する地域への支援	I 4 (3)		社会的な要請への協力 ・公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応	No. 100 小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者自立支援法、児童福祉法、精神保健法などの運用に協力する。	こども	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">公費負担患者状況 (単位：人)</th> </tr> <tr> <th>区分</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>2,158</td> <td>1,901</td> <td>1,891</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>657</td> <td>721</td> <td>722</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>179</td> <td>258</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>134</td> <td>7</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>33</td> <td>157</td> <td>138</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>100</td> <td>172</td> <td>181</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>117</td> <td>96</td> <td>102</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>112</td> <td>97</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3,490</td> <td>3,409</td> <td>3,391</td> </tr> </tbody> </table>	公費負担患者状況 (単位：人)				区分	26年度	27年度	28年度	小児慢性	2,158	1,901	1,891	育成医療	657	721	722	養育医療	179	258	240	特定疾患	134	7	6	特定疾病	33	157	138	生活保護	100	172	181	精神保健	117	96	102	その他	112	97	111	計	3,490	3,409	3,391	A-	(実績に対する評価) 証明書・診断書の発行など公費適応患者の利便性を重視して対応した。 (課題) 公費負担には本人による申請が必要となるが、公費の認定には時間がかかるため、請求が遅れるケースがある上、本人の申請が遅れた場合などの対応については検討が必要である。	患者にとって公費負担申請は手続きが煩雑であることから、今後も引き続き患者の利便性を重視した対応が求められる。
公費負担患者状況 (単位：人)																																																					
区分	26年度	27年度	28年度																																																		
小児慢性	2,158	1,901	1,891																																																		
育成医療	657	721	722																																																		
養育医療	179	258	240																																																		
特定疾患	134	7	6																																																		
特定疾病	33	157	138																																																		
生活保護	100	172	181																																																		
精神保健	117	96	102																																																		
その他	112	97	111																																																		
計	3,490	3,409	3,391																																																		
第1 5 災害等における医療救護	I 5 (1)		医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院（小児分野を含む）等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②小児専門医療機関間の災害時情報交換システム構築への参画	101 ・災害医療訓練を実施する。 ・災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発災時に迅速な対応ができるようにする。	総合	H28.6.17 安否情報確認システムによる情報伝達訓練を行った。 H28.7.21、28 火災発生を想定した通報、初期消火、患者避難の総合訓練を実施した。（新規採用職員を中心に86名参加） H28.8.1～23 院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施した。 H28.8.6 大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）において職員17名（うちDMAT11人）が参加した。 H28.12.4 全職種を対象としたトリアージ訓練を実施（参加者 237人） H29.2.10 県原子力防災訓練にて、被ばく疑われる患者の受入れ及び内部被ばくの測定を行い、その測定結果に基づく対応訓練を行った。（10人）	A	(実績に対する評価) 情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。 (課題) 引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	基幹災害拠点病院として災害医療に関する県の中心的役割を果たすため、県総合防災訓練や大規模地震時医療活動訓練、原子力防災訓練等に参加し、初期救急医療体制等の充実強化が図られている。																																												
		102	・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。	こころ	防災訓練（避難訓練）の企画・実施。 H28.7.21 県及び市と連携し、メール等による情報伝達訓練に参加。（県健康福祉部防災訓練） H28.8.6 政府訓練（大規模地震時医療活動訓練）における静岡DPAT訓練に参加。 H28.9.1 県総合防災訓練（本部運営）において、メール等による情報伝達訓練に参加。 H28.9.2 昼間の病棟における火災発生を想定した訓練を実施。 H28.9.17～19 DPAT先遣隊研修に参加。 H28.9.23 AED取扱研修の実施。 H29.1.16 県主催大規模図上訓練において、メール等による情報伝達訓練に参加。 H29.1.30 安否情報確認システムによる情報伝達訓練実施。夜間の病床における火災発生を想定した避難訓練実施。	A	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、公的病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施した。引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。	各種訓練を実施・参加しており、初期救急医療体制等の充実強化が図られている。 また、平成28年4月に発生した熊本地震に精神科班チームを2班派遣するなど、被災地域における精神科医療及び精神保健活動の支援に貢献した。																																													
		103	・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ・小児医療総合施設協議会において実施を検討している小児専門医療機関間の災害時における情報交換システム構築、運用検討について参加、協力していく。	こども	・平成28年11月に全職種を対象にトリアージ訓練、平成29年1月には、夜間想定防火避難訓練を実施した。 ・当院を含む全国34施設が加盟する日本小児総合医療施設協議会における広域災害時相互支援に関する協定を平成29年3月に締結した。	A	(実績に対する評価) 全国の小児総合医療施設と連携し、大規模災害時における小児医療に特化した広域的な相互支援体制の整備を図る。	日本小児総合医療施設協議会に加盟する医療機関34施設との「広域災害時相互支援に関する協定書」締結により、大規模災害時における施設間での情報共有や後方支援の充実が図られている。																																													

中期目標 第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
 中期計画

	年度計画	No.	行動計画	業務の実績	28実績 自己評価	
					説明	事務局による業務実績の確認
第1 5 災害等における医療救護	I 5 (2) 他県等の医療救護への協力 ・災害発生初期におけるDMAT (災害派遣医療チーム)・DPAT (災害派遣精神医療チーム)の派遣 及び県からの要請に基づく支援等の 実施	104	災害医療救護応援班の訓練を実施する。	総合 H28. 4. 23～27 熊本地震に県医療救護班として1チーム(5人)を派遣し、医療救護活動を行った。 H28. 5. 24～28 伊勢志摩サミットにDMAT1チームを派遣した。(6人) H28. 8. 6 大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)において、活動拠点部にDMAT5名が参加した。 H28. 9. 1 県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員3人が参加した。 H28. 9. 4 県・掛川市総合防災訓練(実働訓練)にDMAT1チーム(4人)が参加した。 H28. 11. 10 県・伊豆市国民保護共同訓練にDMAT1チーム(4人)が参加した。 H28. 12. 11 県からの委託事業として、静岡DMAT隊員ロジスティック研修会①を実施した。(50人) H29. 1. 14～15 県からの委託事業として、静岡DMAT隊員養成研修を実施した。(80人) H29. 1. 17 地震対策オペレーション(大規模図上訓練)において、DMAT1チームが参加した。(4人) H29. 3. 20 県からの委託事業として、静岡DMAT隊員ロジスティック研修会②を実施した。(50人)	A (実績に対する評価) チーム内で適切に情報を伝達・共有し、仮想被害状況に応じたDMATの配置を行った。 (課題) 他チームとの連携に一層の注意を払っていく必要がある。	医師8人、看護師9人、業務調整員6人による4チームのDMATのチーム編成が可能となっており、各種訓練への実施・参加のほか、熊本地震や伊勢志摩サミット等にチーム派遣し、機動性の高い災害派遣医療チームの充実が図られている。